

平成 30 年 度

静岡県歳入歳出決算及び
基金運用状況審査意見書

静岡県監査委員

監 査 第 3 4 号
令和元年9月9日

静岡県知事 川 勝 平 太 様

静岡県監査委員 青 木 清 高

静岡県監査委員 城 塚 浩

静岡県監査委員 和 田 篤 夫

静岡県監査委員 曳 田 卓

平成 30 年度静岡県歳入歳出決算及び基金運用 状況の審査について

地方自治法第 233 条第 2 項の規定に基づき審査に付された平成 30 年度静岡県一般会計及び特別会計の歳入歳出決算並びに同法第 241 条第 5 項の規定に基づき審査に付された平成 30 年度定額の資金を運用するための基金の運用状況について審査したので、その結果について次のとおり意見書を提出します。

目 次

平成 30 年度静岡県歳入歳出決算審査意見書（一般会計及び特別会計）

総 論

| | |
|-------------------|---|
| I 審査の概要 | 1 |
| 1 審査の対象 | 1 |
| 2 審査の期間 | 1 |
| 3 審査の方針 | 1 |
| II 決算の概要 | 2 |
| 1 決算規模 | 2 |
| 2 決算収支 | 3 |
| 3 収入率、執行率の状況 | 3 |
| 4 歳計現金及び基金の運用益の状況 | 3 |
| 5 財政構造 | 4 |
| 6 県債の状況 | 6 |
| 7 基金の状況 | 7 |
| III 審査の結果及び意見 | 8 |
| 1 審査の結果 | 8 |
| 2 審査の意見 | 8 |

各 論

| | |
|-------------|----|
| I 決算の概要 | 17 |
| 1 歳入歳出決算 | 17 |
| 2 決算の分析 | 22 |
| 3 財産の状況 | 27 |
| II 会計別決算の状況 | 28 |
| 1 一般会計歳入 | 28 |
| 2 一般会計歳出 | 36 |
| 3 特別会計歳入歳出 | 43 |
| III 財 産 | 54 |
| 1 公 有 財 産 | 55 |
| 2 債 権 | 56 |
| 3 基 金 | 56 |

平成 30 年度基金運用状況審査意見書

| | |
|---------------|----|
| I 審査の概要 | 58 |
| II 基金の運用状況 | 58 |
| III 審査の結果及び意見 | 58 |

平成 30 年度静岡県歳入歳出決算
審 査 意 見 書
(一般会計及び特別会計)

総 論

I 審査の概要

1 審査の対象

平成 30 年度静岡県歳入歳出決算審査の対象は、次のとおりである。

- (1) 平成 30 年度静岡県一般会計
- (2) 平成 30 年度静岡県特別会計
 - 静岡県公債管理特別会計
 - 静岡県自動車税等証紙徴収事務特別会計
 - 静岡県県営住宅事業特別会計
 - 静岡県母子父子寡婦福祉資金特別会計
 - 静岡県心身障害者扶養共済事業特別会計
 - 静岡県国民健康保険事業特別会計
 - 静岡県中小企業高度化資金貸付事業等特別会計
 - 静岡県林業改善資金特別会計
 - 静岡県沿岸漁業改善資金特別会計
 - 静岡県清水港等港湾整備事業特別会計
 - 静岡県流域下水道事業特別会計
 - 静岡県物品調達事務等特別会計

2 審査の期間

令和元年 7 月 22 日から令和元年 8 月 30 日まで

3 審査の方針

平成 30 年度静岡県一般会計及び特別会計の歳入歳出決算の審査は、次の点を重点に関係諸帳票、証拠書類の照査、関係当局から聴取等を行うとともに、定期監査、例月出納検査等の結果も考慮し実施した。

- (1) 決算計数は、正確か
- (2) 会計事務は、関係法令等に適合して処理されているか
- (3) 予算の執行は、議決の趣旨に沿って適正かつ効果的にされているか
- (4) 資金は適正に管理され、効率的に運用されているか
- (5) 財政は、健全に運営されているか
- (6) 財産の取得、管理及び処分は、適正に処理されているか

Ⅱ 決算の概要

1 決算規模

一般会計の歳入額は1兆1,924億7,779万1千円(前年度比97.1%)、歳出額は1兆1,794億8,167万2千円(前年度比97.1%)となった。

平成30年度に新設された国民健康保険事業特別会計を加えた12の特別会計の歳入額は8,138億9,830万7千円(前年度比172.7%)、歳出額は8,049億4,773万9千円(前年度比172.0%)となった。

| 区 分 | 一 般 会 計 | | 特 別 会 計 | | 合 計 | | |
|---------|---------------------|----------------------|-------------------|--------------------|---------------------|---------------|-------|
| | 金 額 | 前年度比 | 金 額 | 前年度比 | 金 額 | 前年度比 | |
| 予 算 現 額 | 千円 1,249,315,700 | % 97.8 | 千円 813,035,036 | % 172.5 | 千円 2,062,350,736 | % 118.0 | |
| 決 算 額 | 歳 入 額 | 1,192,477,791 | 97.1 | 813,898,307 | 172.7 | 2,006,376,098 | 118.1 |
| | 歳 出 額 | 1,179,481,672 | 97.1 | 804,947,739 | 172.0 | 1,984,429,411 | 117.9 |
| | 差 引 額 | 12,996,119 | 101.0 | 8,950,568 | 275.9 | 21,946,687 | 136.2 |

(注) 金額は、千円未満を四捨五入のため、合計欄等が一致しない場合がある。(以下の表において同じ。)

歳入歳出決算額には一般会計及び特別会計間相互の繰入・繰出金2,115億2,286万4千円が含まれており、重複額を控除した純計決算額は、次の表のとおりである。

| 区 分 | 一 般 会 計 | | 特 別 会 計 | | 合 計 | |
|-------|---------------------|-----------|-------------------|------------|---------------------|------------|
| | 金 額 | 前年度比 | 金 額 | 前年度比 | 金 額 | 前年度比 |
| 歳入決算額 | 千円 1,187,017,218 | % 97.1 | 千円 607,836,016 | % 214.2 | 千円 1,794,853,234 | % 119.2 |
| 歳出決算額 | 973,419,381 | 94.7 | 799,487,166 | 172.8 | 1,772,906,547 | 119.0 |
| 差 引 額 | 213,597,837 | 109.5 | △191,651,150 | — | 21,946,687 | 136.2 |

(注) 一般会計及び特別会計間相互の繰入・繰出額は、20 ページ(2)純計決算額の表に記載のとおりである。

2 決算収支

一般会計の歳入歳出差引額である形式収支は、129億9,611万9千円、翌年度へ繰り越す財源を差し引いた実質収支は、49億7,768万6千円で共に黒字となった。

また、実質収支から前年度の実質収支を差し引いた単年度収支は、4,031万円の赤字となった。

特別会計の形式収支は、89億5,056万8千円、翌年度へ繰り越す財源を差し引いた実質収支は、87億2,365万3千円で共に黒字となり、単年度収支は、57億1,117万4千円の黒字となった。

また、一般会計と特別会計の合計の形式収支は、219億4,668万7千円、実質収支は、137億133万9千円で共に黒字となり、単年度収支は56億7,086万4千円の黒字となった。

| 区 分 | 一 般 会 計 | | 特 別 会 計 | | 合 計 | |
|-----------|------------------|------------|-----------------|------------|------------------|------------|
| | 金 額 | 前年度比 | 金 額 | 前年度比 | 金 額 | 前年度比 |
| 形 式 収 支 | 千円 12,996,119 | % 101.0 | 千円 8,950,568 | % 275.9 | 千円 21,946,687 | % 136.2 |
| 実 質 収 支 | 4,977,686 | 99.2 | 8,723,653 | 289.6 | 13,701,339 | 170.6 |
| 単 年 度 収 支 | △40,310 | — | 5,711,174 | — | 5,670,864 | — |

3 収入率、執行率の状況

一般会計及び特別会計の収入率は、それぞれ99.3%、99.7%となり、前年度に比べて一般会計は変わらなかったものの、特別会計が0.3ポイント上昇し、合計99.5%で0.2ポイント上昇した。

また、一般会計の執行率は、94.4%で前年度と比べ0.7ポイント低下、特別会計の執行率は99.0%と前年度に比べ0.3ポイント低下し、合計は96.2%で前年度に比べて0.1ポイント低下した。

| 区 分 | 一 般 会 計 | | 特 別 会 計 | | 合 計 | |
|-------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|
| | 率 | 前年度増減 | 率 | 前年度増減 | 率 | 前年度増減 |
| 収 入 率 | % 99.3 | ポイント 0.0 | % 99.7 | ポイント 0.3 | % 99.5 | ポイント 0.2 |
| 執 行 率 | 94.4 | △0.7 | 99.0 | △0.3 | 96.2 | △0.1 |

(注)収入率は収入済額の調定額に対する割合、執行率は支出済額の予算現額に対する割合である。

4 歳計現金及び基金の運用益の状況

歳計現金及び基金の運用益の合計は24億9,258万9千円となり、前年度の27億9,676万5千円に比べて10.9%減少した。

| 年度 | 歳計現金運用益 | | 基金運用益 | | 合 計 | |
|----|---------|-------|-----------|------|-----------|------|
| | 金 額 | 前年度比 | 金 額 | 前年度比 | 金 額 | 前年度比 |
| | 千円 | % | 千円 | % | 千円 | % |
| 30 | 1,974 | 346.9 | 2,490,615 | 89.1 | 2,492,589 | 89.1 |
| 29 | 569 | 86.3 | 2,796,196 | 83.2 | 2,796,765 | 83.2 |

5 財政構造

財政構造を示す指標の推移は、次の表のとおりである。

平成 30 年度の一般財源等比率(使途が特定されずに自由に使用できる財源の割合)は、地方譲与税の増などにより、79.9%と前年度より 0.8 ポイント上昇した。

また自主財源比率は、59.2%と前年度より 0.2 ポイント低下、義務的経費比率は 50.8%で前年度より 1.8 ポイント上昇した。

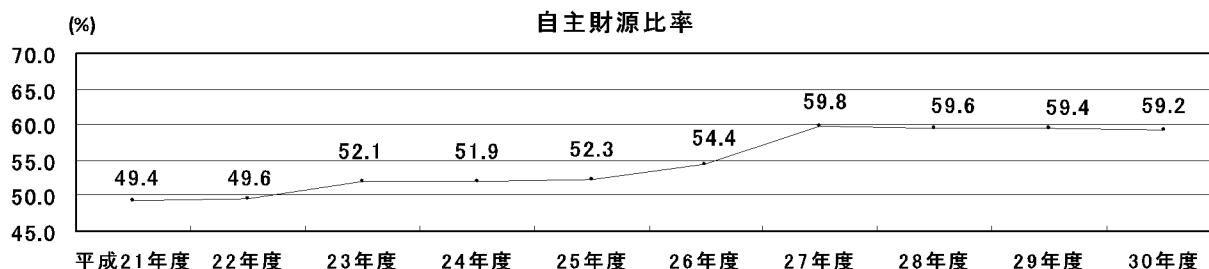
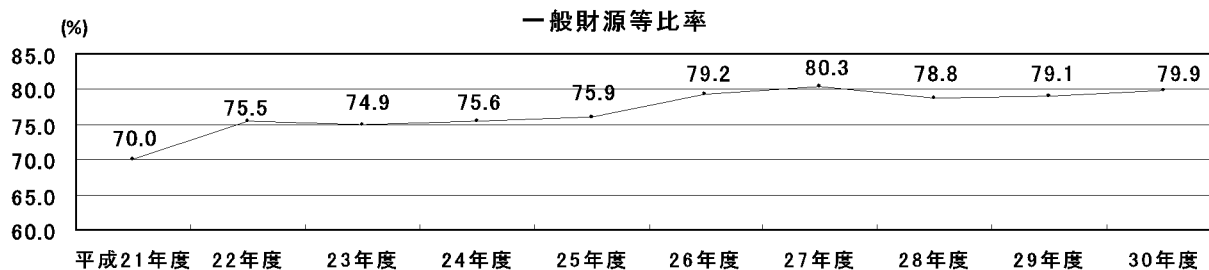
財政構造の弾力性を示す経常収支比率は 95.2%と前年度より 0.7 ポイント上昇した。

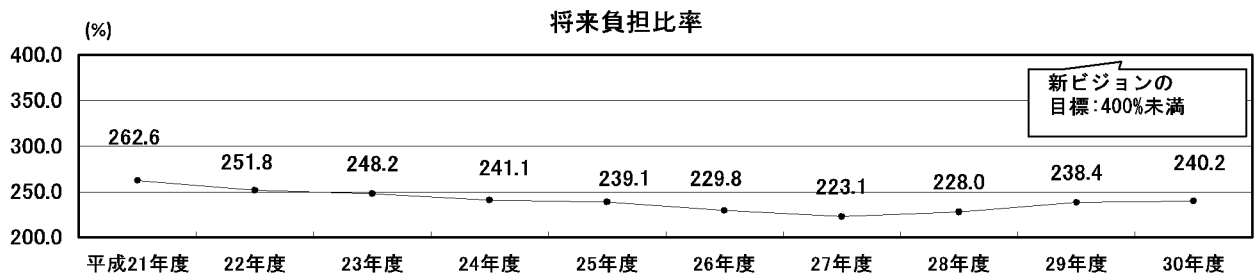
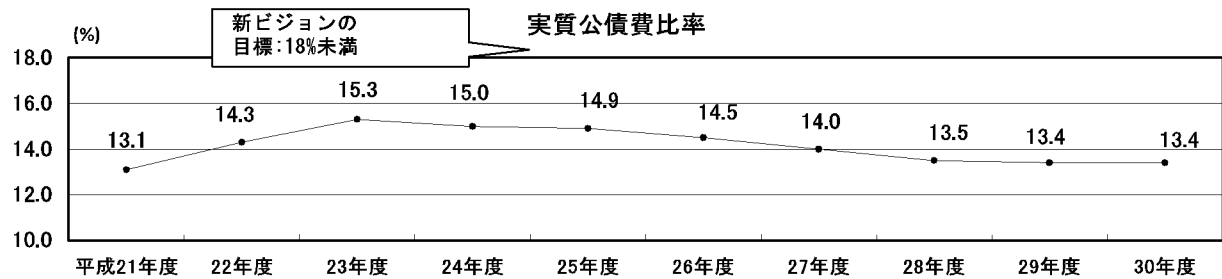
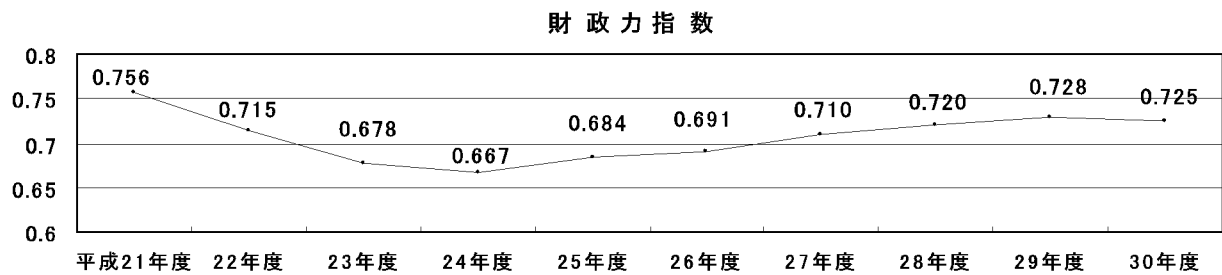
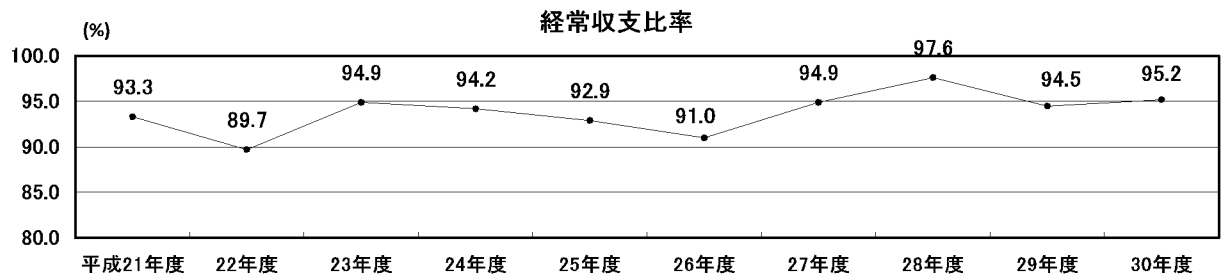
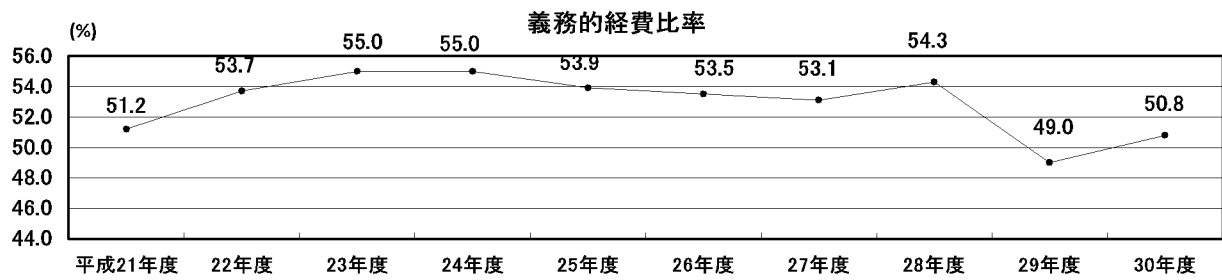
地方公共団体の財政力を示す財政力指数は 0.725 となり、前年度より 0.003 ポイント下降した。公債費の財政負担の度合いを示す指標である実質公債費比率は 13.4%で前年度と変わらず、新ビジョンの財政健全化の目標数値である「18%未満」を達成した。一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の度合いを示す将来負担比率は 240.2%で前年度より 1.8 ポイント悪化したものの、目標数値である「400%未満」を達成した。

| 区 分 | 平成 | 平成 | 平成 | 平成 | 平成 | 平成 | 平成 | 平成 | 平成 | 平成 30 年度 | | 備 考 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------|------------|---------------|
| | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | | 前年度 増 減 | |
| 一般財源等比率 | % | % | % | % | % | % | % | % | % | % | ポイント | |
| | 70.0 | 75.5 | 74.9 | 75.6 | 75.9 | 79.2 | 80.3 | 78.8 | 79.1 | 79.9 | 0.8 | |
| 自主財源比率 | 49.4 | 49.6 | 52.1 | 51.9 | 52.3 | 54.4 | 59.8 | 59.6 | 59.4 | 59.2 | △0.2 | |
| 義務的経費比率 | 51.2 | 53.7 | 55.0 | 55.0 | 53.9 | 53.5 | 53.1 | 54.3 | 49.0 | 50.8 | 1.8 | |
| 経常収支比率 | 93.3 | 89.7 | 94.9 | 94.2 | 92.9 | 91.0 | 94.9 | 97.6 | 94.5 | 95.2 | 0.7 | |
| 財政力指数 | 0.756 | 0.715 | 0.678 | 0.667 | 0.684 | 0.691 | 0.710 | 0.720 | 0.728 | 0.725 | △0.003 | (注)2 |
| 実質公債費比率 | 13.1 | 14.3 | 15.3 | 15.0 | 14.9 | 14.5 | 14.0 | 13.5 | 13.4 | 13.4 | 0.0 | 目標: 18%未満 |
| 将来負担比率 | 262.6 | 251.8 | 248.2 | 241.1 | 239.1 | 229.8 | 223.1 | 228.0 | 238.4 | 240.2 | 1.8 | 目標: 400%未満 |

(注)1 備考欄の「目標」は、新ビジョンの目標数値である。

2 財政力指数は、過去 3 年間の平均であり、単位はない。





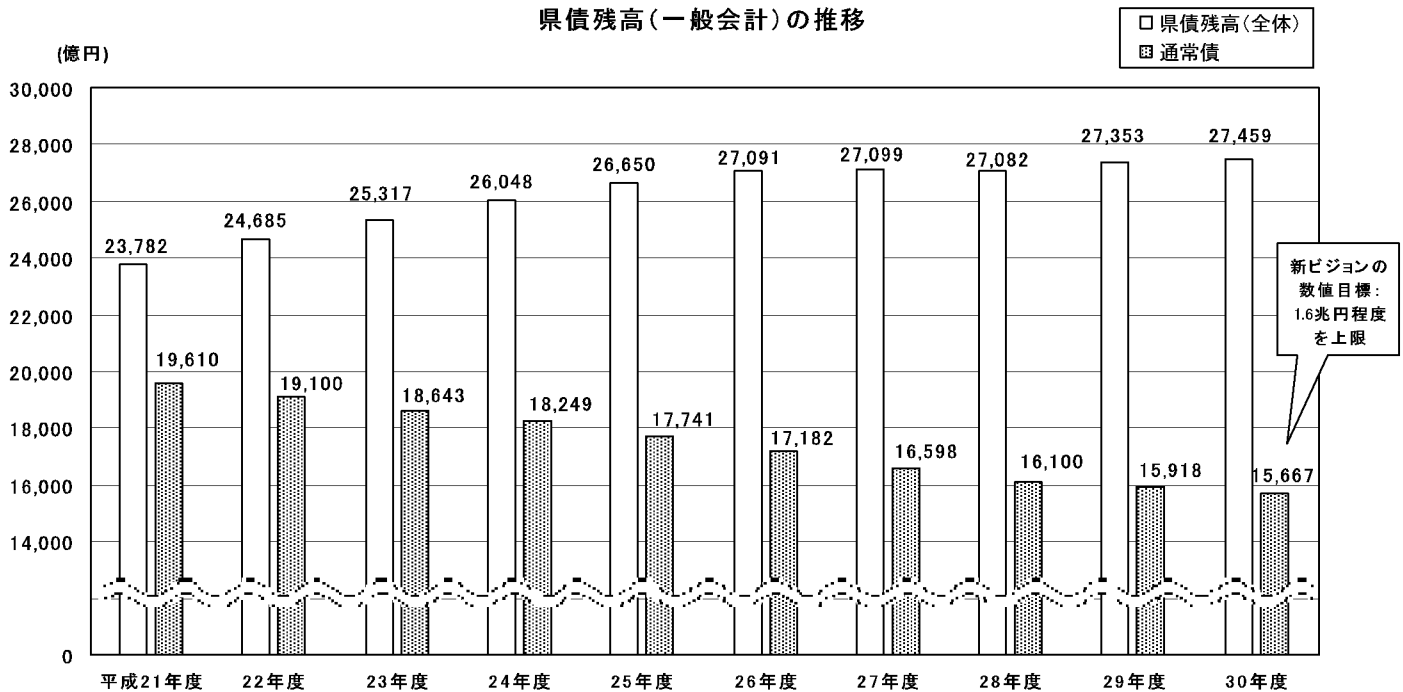
6 県債の状況

平成30年度末における一般会計の通常債の県債残高は、1兆5,667億3,985万9千円となり、前年度末に比べ250億8,803万2千円減少した。また、臨時財政対策債と病院債を含めた県債全体の残高は、2兆7,459億2,416万9千円となり、前年度末に比べ106億5,893万6千円増加した。これは、臨時財政対策債(後年度に国から元利償還金が補填されることから実質的な地方交付税として扱われる。)の発行額が償還額よりも大きいことが主な要因である。

<県債残高(一般会計)>

| 区 分 | 平成29年度末 | 平成30年度中 | | 平成30年度末 | 増減額 | 備考 |
|---------|---------------------|-------------------|-------------------|----------------------------|--------------------------|-------------------|
| | | 起債額 | 償還額 | | | |
| 通常債 | 千円 1,591,827,891 | 千円 85,526,000 | 千円 110,614,032 | 千円 1,566,739,859 | 千円 △25,088,032 | 目標：通常債は1.6兆円程度を上限 |
| 臨時財政対策債 | 1,100,767,272 | 75,085,000 | 40,477,744 | 1,135,374,528 | 34,607,256 | |
| 病院債 | 42,670,070 | 4,270,900 | 3,131,188 | 43,809,782 | 1,139,712 | |
| 全体合計 | 2,735,265,233 | 164,881,900 | 154,222,964 | 2,745,924,169 | 10,658,936 | |

県債残高(一般会計)の推移



7 基金の状況

財政課所管 4 基金(財政調整基金、県債管理基金、庁舎建設基金、大規模地震災害対策基金)の平成 30 年度末現在高は、5,660 億 2,766 万 4 千円となり、前年度末に比べ 375 億 1,812 万 7 千円増加した。なお、平成 30 年度決算を踏まえた令和元年度末時点の活用可能見込額は、404 億 1,442 万 7 千円となっており、前年度よりも 50 億円余増加している。

これは、歳出不用残等により、平成30年度中の財政調整基金及び県債管理基金(一般会計分)の取崩しを中止したこと等による。

また、平成 30 年度末の基金全体の現在高は 6,451 億 9,279 万 9 千円となり、前年度末に比べて 306 億 4,234 万 6 千円増加した。

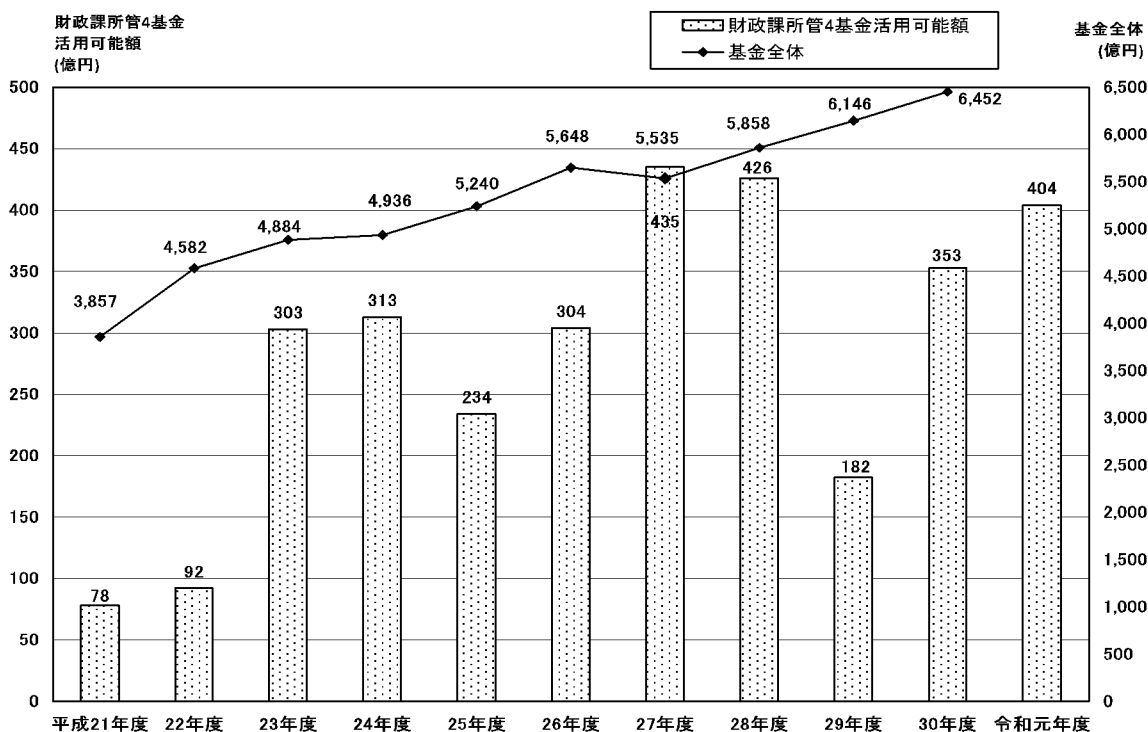
これは、県債管理基金(公債管理特別会計分)において、満期一括償還方式の県債の償還相当額の積み立てを行ったことなどによるものである。

<基金現在高>

| 区 分 | 平成 30 年度末 | 平成 29 年度末 | 増 減 額 | 備 考 |
|------------|-------------------|-------------------|------------------|------------|
| 財政課所管 4 基金 | 千円 566,027,664 | 千円 528,509,537 | 千円 37,518,127 | |
| うち県債管理基金 | 549,594,513 | 512,082,202 | 37,512,311 | 一般会計と特別会計分 |
| 決算後の活用可能額 | 40,414,427 | 35,327,065 | 5,087,362 | 翌年度末時点見込 |

| 区 分 | 平成 30 年度末 | 平成 29 年度末 | 増 減 額 | 備 考 |
|------|-------------------|-------------------|------------------|-------------------|
| 基金全体 | 千円 645,192,799 | 千円 614,550,453 | 千円 30,642,346 | 30 年度末現在 29 基金 |

財政課所管4基金活用可能額等の推移



(注) 財政課所管4基金の活用可能額は、前年度決算後の金額である。
平成26年度以前は、平成26年度末に廃止された土地開発基金を含む5基金。

Ⅲ 審査の結果及び意見

1 審査の結果

平成 30 年度一般会計及び特別会計の歳入歳出決算の計数については、決算書、同附属書類、関係諸帳票、指定金融機関の現金有高表等を照合審査した結果、正確であることを確認した。

また、財政運営、予算の執行、会計及び財産・資金に関する事務については、一部改善を要する事項も見受けられたが、おおむね適正に行われているものと認める。

2 審査の意見

平成 30 年度の決算について、次のとおり意見を述べる。

(1) 財政運営・予算執行

ア 健全な財政運営の堅持について

歳入決算額は、主に県税や県債発行の減により、一般会計で前年度に比べ 2.9% 減少した。

県税の決算額は、4,838 億 4,000 万円余であり、輸出関連業種を中心とした企業収益の改善に伴い、法人二税が前年度に比べ 106 億 9,000 万円余 (対前年度比 7.8%) 増加したことなどにより、最終予算額 4,836 億円に対し、2 億 4,000 万円余増となった。

また、前年度決算額 4,989 億 8,000 万円余に対しては、3.0%、151 億 3,000 万円余の減少であり、これは、政令市への税源移譲の影響により、個人県民税が 261 億 5,000 万円余 (同△17.4%) 減少したことなどによるものである。

県債は 1,648 億 8,190 万円で、前年度決算額 1,798 億 9,700 万円に対し、150 億 1,510 万円の減少となった。これは、減収補填債(特例分)の発行減等によるものである。

一般財源等と特定財源

| 区 分 | 平成 30 年度 | | 平成 29 年度 | | 比較増減 | | 決算額 増減率 | |
|------------|---------------|-------------------|---------------|-------------------|-------------|-------------------|-------------|-----------|
| | 決算額 | 構成比 | 決算額 | 構成比 | 決算額 | 構成比 | | |
| 一般財源等 | 県 税 | 千円 483,849,829 | % 40.6 | 千円 498,980,968 | % 40.6 | 千円 △15,131,139 | ポイント 0.0 | % △3.0 |
| | うち法人二税 | 148,491,324 | 12.5 | 137,800,991 | 11.2 | 10,690,333 | 1.3 | 7.8 |
| | うち個人県民税 | 124,072,602 | 10.4 | 150,225,505 | 12.2 | △26,152,903 | △1.8 | △17.4 |
| | うち地方消費税 | 85,713,143 | 7.2 | 86,069,983 | 7.0 | △356,840 | 0.2 | △0.4 |
| | うち軽油取引税 | 38,592,547 | 3.2 | 38,136,072 | 3.1 | 456,475 | 0.1 | 1.2 |
| | 地方消費税清算金 | 144,157,581 | 12.1 | 139,798,160 | 11.4 | 4,359,421 | 0.7 | 3.1 |
| | 地方交付税 | 146,970,460 | 12.3 | 145,634,392 | 11.9 | 1,336,068 | 0.4 | 0.9 |
| | 臨時財政対策債・減収補填債 | 77,108,000 | 6.4 | 90,900,000 | 7.5 | △13,792,000 | △1.1 | △15.2 |
| | その他 | 100,167,511 | 8.5 | 95,545,081 | 7.7 | 4,622,430 | 0.8 | 4.8 |
| 計 | 952,253,381 | 79.9 | 970,858,601 | 79.1 | △18,605,220 | 0.8 | △1.9 | |
| 特定財源 | 国庫支出金 | 107,763,185 | 9.0 | 113,352,347 | 9.2 | △5,589,162 | △0.2 | △4.9 |
| | 繰入金 | 11,796,545 | 1.0 | 24,182,129 | 2.0 | △12,385,584 | △1.0 | △51.2 |
| | 県債 | 87,773,900 | 7.4 | 88,997,000 | 7.3 | △1,223,100 | 0.1 | △1.4 |
| | その他 | 32,890,780 | 2.7 | 30,384,053 | 2.4 | 2,506,727 | 0.3 | 8.3 |
| | 計 | 240,224,410 | 20.1 | 256,915,529 | 20.9 | △16,691,119 | △0.8 | △6.5 |
| 合計 | 1,192,477,791 | 100.0 | 1,227,774,130 | 100.0 | △35,296,339 | — | △2.9 | |
| うち県債全体(再掲) | 164,881,900 | 13.8 | 179,897,000 | 14.7 | △15,015,100 | △0.9 | △8.3 | |

歳出決算額では、義務的経費については、前年度と比べ扶助費が 4.2%増加し、歳出全体に占める構成比が 9.7%となり、0.6 ポイント増加した。義務的経費全体では 0.6%の増加となり、歳出全体に占める構成比は 1.8 ポイント増の 50.8%となった。

投資的経費については、前年度から 3.1%の増加となったが、これは普通建設事業費が 1.9%増加となったことなどによるものである。

また、新総合計画である静岡県の新ビジョンを推進する財源となる“ふじのくにづくり推進基金”積立金が皆減したこと等により、その他経費は前年度より 10.0%減少し、歳出に占める構成比も 34.0%と、2.7 ポイント減少した。

歳出決算額の性質別内訳

| 区 分 | 平成 30 年度 | | 平成 29 年度 | | 比較増減 | | 決算額 増減率 |
|-------|-------------------|------------------|-------------------|------------------|-----------------|--------------------|-----------------|
| | 決算額 | 構成比 | 決算額 | 構成比 | 決算額 | 構成比 | |
| 義務的経費 | 千円 599,323,503 | % 50.8 | 千円 595,581,021 | % 49.0 | 千円 3,742,482 | ポイント 1.8 | % 0.6 |
| 人件費 | 300,476,745 | 25.5 | 300,596,903 | 24.7 | △120,158 | 0.8 | 0.0 |
| 扶助費 | 114,677,952 | 9.7 | 110,055,779 | 9.1 | 4,622,173 | 0.6 | 4.2 |
| 公債費 | 184,168,806 | 15.6 | 184,928,339 | 15.2 | △759,533 | 0.4 | △0.4 |
| 投資的経費 | 179,349,275 | 15.2 | 174,013,472 | 14.3 | 5,335,803 | 0.9 | 3.1 |
| その他経費 | 400,808,894 | 34.0 | 445,310,854 | 36.7 | △44,501,960 | △2.7 | △10.0 |
| 合 計 | 1,179,481,672 | 100.0 | 1,214,905,347 | 100.0 | △35,423,675 | — | △2.9 |

次に、一般会計の県債残高についてであるが、新ビジョンの目標に設定している通常債の残高は、1兆5,667億3,900万円余となり、前年度末より250億8,800万円余減少し、着実に残高の縮減が図られている一方で、臨時財政対策債の残高は1兆1,353億7,400万円余となり、前年度末より346億700万円余増加した。

また、県の財政構造を示す7つの指標を見ると、義務的経費比率、経常収支比率など、前年に比べて悪化している指標はあるものの、一般財源等比率は前年度に比べて改善し、実質公債費比率も前年の水準を維持し、目標数値を達成している。将来負担比率についても、前年度から悪化はしているが目標数値の範囲内である。

さらに、財源不足への対応に活用可能な基金現在高は、平成30年度決算後時点で404億円となり、前年度の353億円より増加している。

以上の要素を勘案すると、県の財政状況は前年よりも健全化しており、新ビジョンに掲げる財政調整用の基金に頼らない収支均衡の財政運営の目標達成に向け、着実に進捗していると評価する。

一方で、県人口が減少する中で少子高齢化は一段と加速しており、今後も社会保障関係費等の大幅な増加も当然のことながら見込まれる。加えて、地方消費税率引上げに伴い一般財源総額の増加が見込まれるものの、最近の世界経済の動向を鑑みれば、税収増がいつまで継続するかは不透明である。

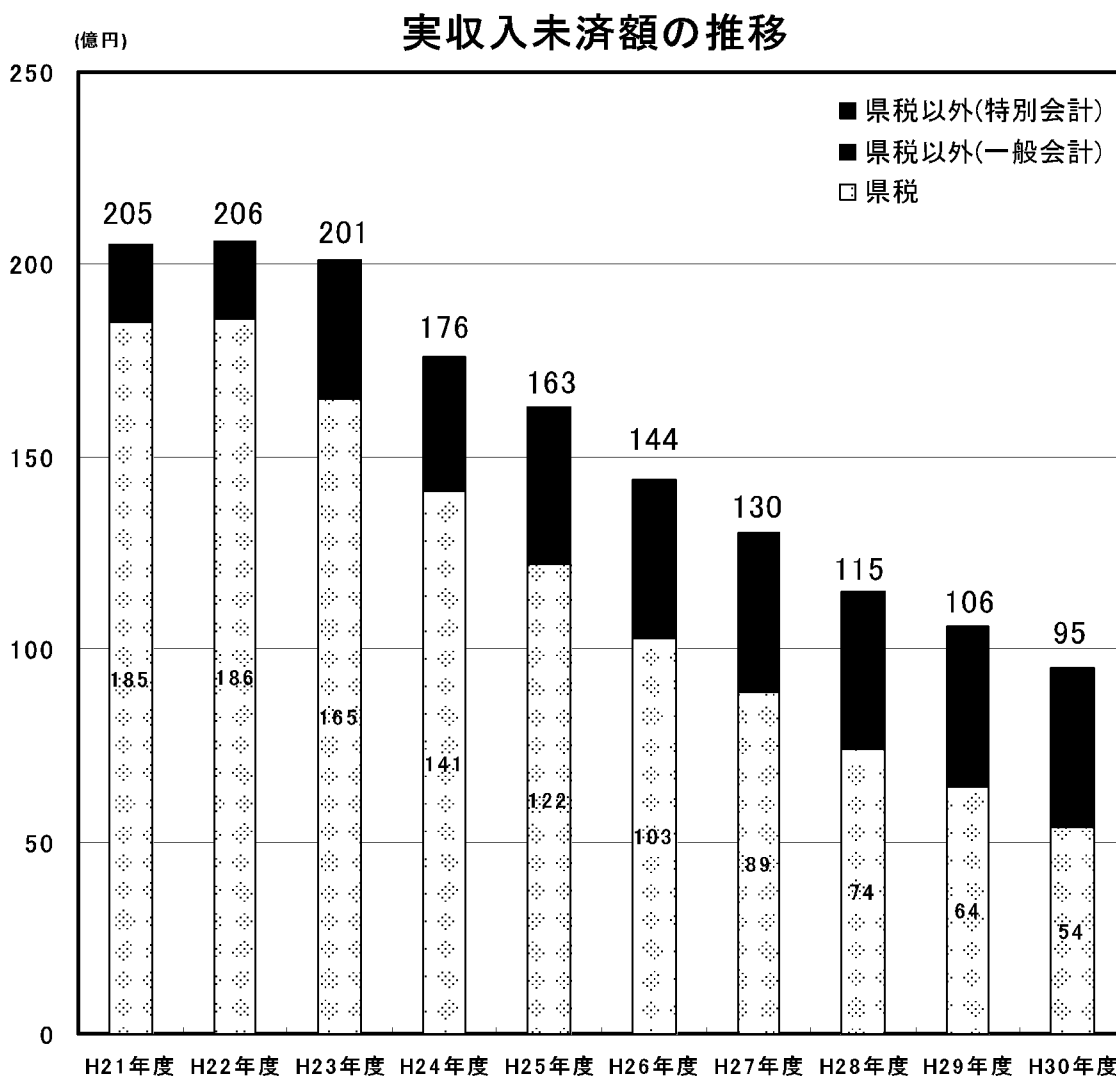
また、国から元利償還金の財源保障があり実質的な地方交付税として扱われているとはいえ、臨時財政対策債の残高が1兆1,300億円を超え、全体の県債残高の41%を占めるまでに累増している。

新たにスタートした令和の時代においても、健全な財政運営を堅持し、今後の財政運営の考え方である「収支が均衡した財政運営」の実現に向けて、引き続き歳入歳出

の改革を進め、従来の取組以上に歳入の確保や歳出の見直しを推進するとともに、将来にわたって安定的な税財源の構築、臨時財政対策債の廃止を含めた改革と償還財源の別枠での確保について、国に対してあらゆる機会を活用して強力に働きかけられたい。

イ 収入未済額の縮減への取組について

収入未済額から徴収猶予等の措置をとったものを除いた実収入未済額が、平成 22 年度の 205 億 6,785 万 2 千円から減少に転じ、平成 30 年度には 95 億 2,964 万 5 千円と半分以上にまで縮減していることについて、その取組は評価できる。県税関係、県税関係以外のそれぞれの状況は次のとおりである。



| 区 分 | 平成 22 年度 | 平成 27 年度 | 平成 28 年度 | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 30 年度/22 年度 | |
|-----|------------|------------|------------|------------|-----------|-------------|--------|
| | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 増減額 | 増減率 |
| 合 計 | 20,567,852 | 13,012,165 | 11,483,889 | 10,550,039 | 9,529,645 | △11,038,207 | △53.7% |

(ア) 県税関係

県税に税外収入の加算金を加えた実収入未済額は53億9,767万円余となり、前年度に比べ15.9%、10億2,266万円余の減少となった。そのうち9億8,425万円余の減少は個人県民税が占めており、平成24年度から市町と協働で進めてきた特別徴収の徹底など、取組の強化に努めてきた成果が現れたものと考えられる。

県税関係の主な実収入未済額の推移（過去5年間）

| 区 分 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 30年度/29年度 | |
|-------------|------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|------------------|------------|
| | | | | | | 増減額 | 増減率 |
| 県税関係 | 千円 10,296,943 | 千円 8,924,679 | 千円 7,421,415 | 千円 6,420,344 | 千円 5,397,678 | 千円 △1,022,666 | % △15.9 |
| 県税(個人県民税) | 9,083,982 | 7,977,885 | 6,674,156 | 5,773,237 | 4,788,980 | △984,257 | △17.0 |
| 県税(個人県民税以外) | 1,142,246 | 879,762 | 679,845 | 588,466 | 553,540 | △34,926 | △5.9 |
| 加算金 | 70,715 | 67,032 | 67,414 | 58,641 | 55,158 | △3,483 | △5.9 |

また、個人県民税(均等割・所得割)の収入率は、平成24年度以降の上記取組による滞納繰越額の減少もあって、年々上昇してきたが、平成30年度は、政令市への税源移譲の影響により、前年度と同率の95.6%であった。これにより平成24年度以降、徐々に上がっていた全国順位も、前年度の37位から39位へと順位を落している。県政運営の自主性を保持する上で県税の確保は重要な命題であり、特に個人県民税の徴収については、まだ工夫の余地があると思われるので、引き続き市町と協働での対策を進めるなど、より一層の徴収強化に努められたい。

個人県民税(均等割・所得割)の収入率と全国順位

| 年 度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 30年度-29年度 差引増減 |
|---------|----------|----------|----------|----------|--------------|-------------------|
| 収入率 | 93.0% | 93.9% | 94.9% | 95.6% | 95.6% | 0.0ポイント |
| 全国順位 | 41位 | 40位 | 37位 | 37位 | 39位 | △2位 |
| 全国平均 | 93.8% | 94.7% | 95.4% | 96.1% | 96.3% | 0.2ポイント |
| 全国平均との差 | △0.8ポイント | △0.8ポイント | △0.5ポイント | △0.5ポイント | △0.7ポイント | △0.2ポイント |

(イ) 県税関係以外

平成30年度の実収入未済額は41億3,196万円余で、前年度に比べ、0.1%、227万円余の増加となった。

未済額の主なものは、1件が13億円を超えるものがあるなど合計で約18億9,310万円余となっている中小企業高度化資金貸付事業等特別会計に係る貸付金償還金、平成25年度に発生した、愛鷹山麓での不法投棄に係る7億4,238万円余の産業廃棄物原状回復代執行費用返納金、母子父子寡婦福祉資金貸付金償還金、県営住宅

に係る公営住宅使用料、生活保護費返還金等である。

県税関係以外の未収金については、全庁的な観点から部局を横断して対策に取り組む「税外収入債権管理調整会議」を設置し、平成23年度から過年度未収金について、回収目標や整理目標を立て縮減に向けた各種の取組を行っている。平成30年度においては、29年度に改定した県債権管理マニュアルの活用、債権回収の外部委託対象の拡大等の取組により、実収入未済額が縮減している債権もある一方で、母子父子寡婦福祉資金貸付金償還金、生活保護費返還金など、新規未収金の発生により実収入未済額が増加しているものもあることから、引き続き収入未済の縮減・解消に努めるとともに、新たな収入未済の発生防止に努力されたい。

県税関係以外の主な実収入未済額の推移（過去5年間）

| 区 分 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 30年度/29年度 | | |
|------------------|------------------------|-----------------|-----------------|-----------------|------------------------|--------------------|-----------------|-------|
| | | | | | | 増減額 | 増減率 | |
| 県税関係以外 | 千円 4,111,709 | 千円 4,087,486 | 千円 4,062,474 | 千円 4,129,695 | 千円 4,131,967 | 千円 2,272 | % 0.1 | |
| 一 般 会 計 | 児童措置費納付金 | 88,220 | 83,884 | 84,590 | 86,807 | 90,898 | 4,091 | 4.7 |
| | 教育奨学金返還金 | 46,616 | 44,871 | 50,049 | 51,478 | 51,746 | 268 | 0.5 |
| | 青年農業者等育成確保資金貸付金償還金等（※） | - | - | 36,398 | 46,391 | 46,454 | 63 | 0.1 |
| | 過年度返納金 | 112,436 | 97,834 | 93,431 | 92,062 | 79,383 | △12,679 | △13.8 |
| | 生活保護費返還金 | 81,391 | 92,315 | 113,149 | 126,663 | 151,307 | 24,644 | 19.5 |
| | 新規産業立地事業費補助金等 | 20 | 6,716 | 51 | 72,057 | 86,297 | 14,240 | 19.8 |
| | 産業廃棄物原状回復代執行費用返納金 | 747,663 | 746,889 | 746,195 | 743,048 | 742,388 | △660 | △0.1 |
| | 放置違反金 | 29,114 | 26,783 | 21,521 | 16,737 | 8,777 | △7,960 | △47.6 |
| | その他 | 111,341 | 131,837 | 132,506 | 138,146 | 151,116 | 12,970 | 9.4 |
| | 小 計 | 1,216,801 | 1,231,129 | 1,277,890 | 1,373,389 | 1,408,366 | 34,977 | 2.5 |
| 特 別 会 計 | 公営住宅使用料等 | 265,001 | 242,908 | 217,567 | 203,521 | 190,328 | △13,193 | △6.5 |
| | 母子父子寡婦福祉資金貸付金償還金等 | 493,259 | 526,384 | 562,878 | 591,756 | 628,895 | 37,139 | 6.3 |
| | 中小企業共同施設資金貸付金償還金等 | 2,074,157 | 2,030,951 | 1,989,836 | 1,945,959 | 1,893,108 | △52,851 | △2.7 |
| | 青年農業者等育成確保資金貸付金償還金等（※） | 44,304 | 40,211 | - | - | - | - | - |
| | その他 | 18,187 | 15,903 | 14,303 | 15,070 | 11,270 | △3,800 | △25.2 |
| 小 計 | 2,894,908 | 2,856,357 | 2,784,584 | 2,756,306 | 2,723,601 | △32,705 | △1.2 | |

※ 青年農業者等育成確保資金貸付金償還金等は、平成27年度末に就農支援基金特別会計が廃止されたことに伴い、一般会計へ移管した。

ウ 事業繰越の縮減について

翌年度への繰越の状況は、一般会計で585億334万円8千円、前年度比120.8%と増加した。特別会計については15億7,010万1千円で、前年度比95.3%と減少している。また、一般会計では、平成30年度に相次いで発生した自然災害の影響により、資機材の調達ができず年度内の完了困難となったことによるもの1件13億4,788万8千円の事故繰越が発生している。

平成30年度の明許繰越の内訳としては、通常分が資機材の不足による工事の遅れや用地取得の遅れなどにより、繰越額が前年度に比べ45億7,051万円余増加し、また、追加分(国補正や災害発生に伴う事業の繰越)も国の経済対策等に伴う国補正事業の増加により42億9,310万円余増加している。

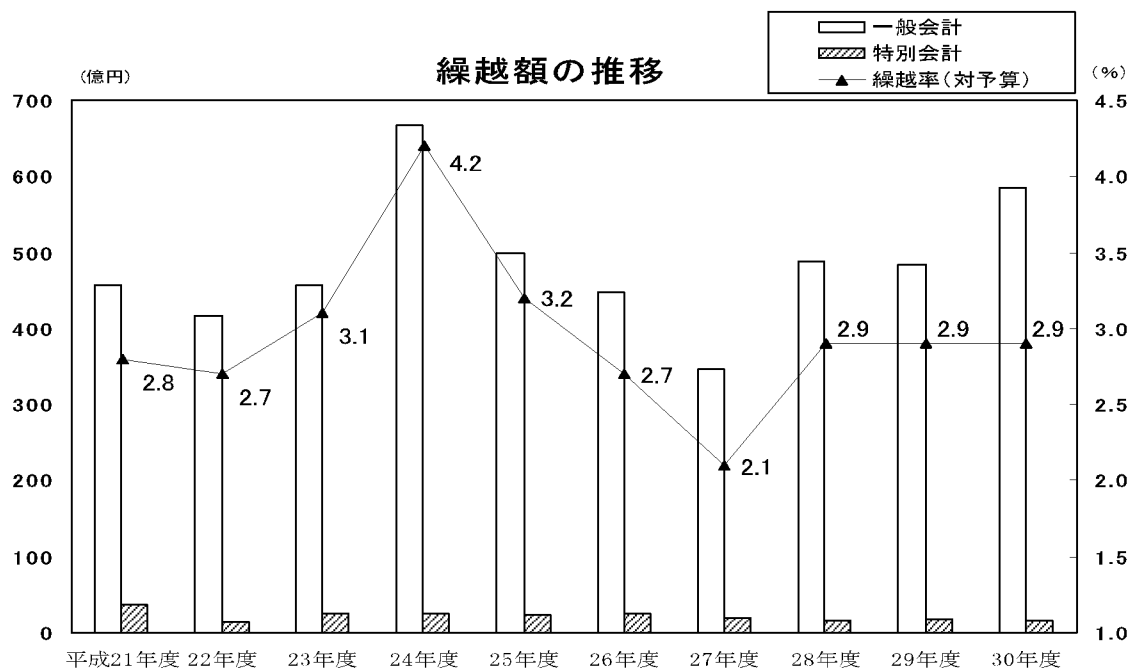
事業効果を早期に発揮できるよう、関係機関等との十分な調整を行うなど、的確な計画立案及び効率的な予算執行を図り、繰越額の縮減に努められたい。

| 区 分 | 一 般 会 計 | | 特 別 会 計 | | 合 計 | |
|-------|------------------|------------|-----------------|-----------|------------------|------------|
| | 金 額 | 前年度比 | 金 額 | 前年度比 | 金 額 | 前年度比 |
| 繰 越 額 | 千円 58,503,348 | % 120.8 | 千円 1,570,101 | % 95.3 | 千円 60,073,449 | % 120.0 |

〈一般会計分の内訳〉

(単位:千円)

| 区 分 | 平成30年度 | 平成29年度 | 増減額 |
|--------------|------------|------------|------------|
| 明許繰越額 | 57,155,460 | 48,291,841 | 8,863,619 |
| 通常分 | 32,831,563 | 28,261,048 | 4,570,515 |
| 追加分(国の補正関連等) | 24,323,897 | 20,030,793 | 4,293,104 |
| 事故繰越額 | 1,347,888 | 131,859 | 1,216,029 |
| 計 | 58,503,348 | 48,423,700 | 10,079,648 |



エ 不用額について

歳出予算における不用額は、一般会計では、113 億 3,068 万円で、前年度比 82.0%、24 億 9,340 万 5 千円の減少となっている。また、特別会計では、65 億 1,719 万 6 千円で、前年度比 401.7%、48 億 9,493 万 2 千円の増加となっている。

一般会計の内訳の中で減少している主なものは、道路関係国庫補助事業費、現年補助災害土木復旧費や所得割交付金などである。

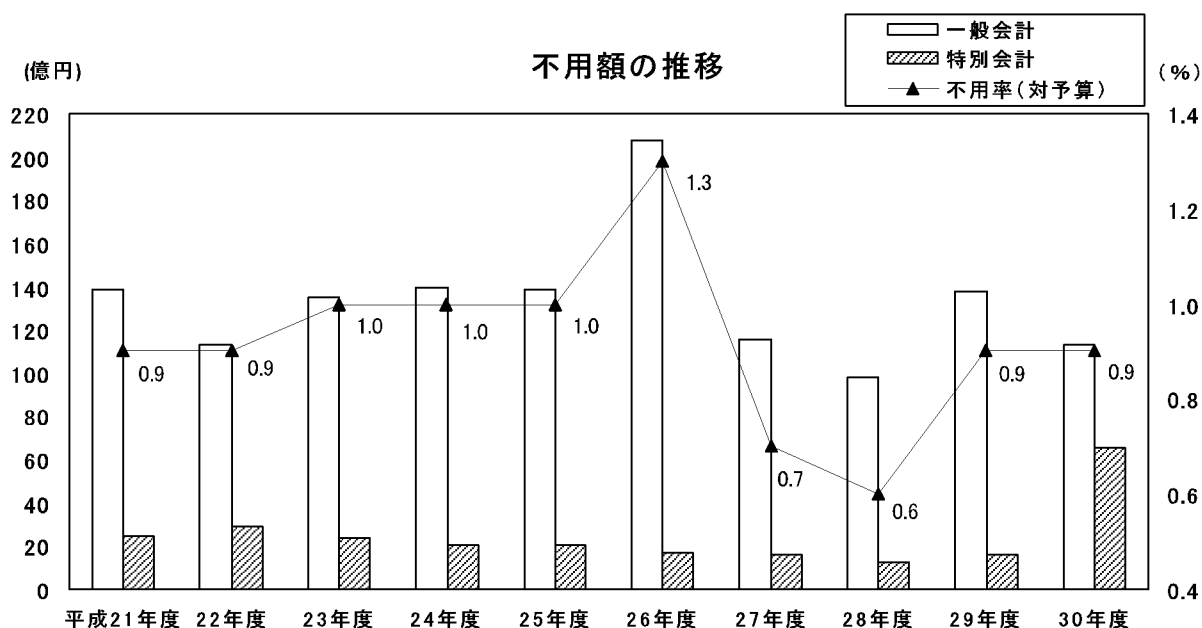
一方、経営体育成支援事業費助成、子ども・子育て支援給付費負担金など、事業費の確定や実績に伴うものについて、不用額が増加している。

また、特別会計の内訳で増加している主なものは、平成 30 年度に新設された国民健康保険事業特別会計などである。

平成 30 年度の一般会計における不用額は、前年度を下回った。財政の健全化を推進し財源の有効な活用を図るため、予算の適正額の確保と適時・的確な見直しによる不用額の縮減について、当初予算計上時から精度の高い所要経費の見積りを行うとともに、事業の進捗状況を的確に把握した上で補正等を行い、引き続き、効率的な予算執行に努められたい。

<不用額>

| 区 分 | 一 般 会 計 | | 特 別 会 計 | | 合 計 | |
|----------|------------------|-----------|-----------------|------------|------------------|------------|
| | 金 額 | 前年度比 | 金 額 | 前年度比 | 金 額 | 前年度比 |
| 平成 30 年度 | 千円 11,330,680 | % 82.0 | 千円 6,517,196 | % 401.7 | 千円 17,847,876 | % 115.5 |
| 平成 29 年度 | 13,824,085 | 140.5 | 1,622,264 | 135.4 | 15,446,349 | 139.9 |
| 増減額 | △2,493,405 | — | 4,894,932 | — | 2,401,527 | — |



(2) 事務執行

ア 財務会計事務等の適正な執行について

平成 30 年度定期監査等においては、職場内秩序を乱す行為(暴言)の発生など26件を監査結果として一番重い「指摘」としたほか、職員住宅貸付料の調定漏れ、収入印紙の貼付額誤り等56件を「注意」とした。監査結果は、指導、意見等を含めると全体で255件、前年度に比べ27件の増加となっている。

このうち、財務会計に関わるものは、55件であり、前年度より13件減少している。

出納局では目的や対象者別に区分を設けて研修を実施するなど、財務会計事務に携わる職員の資質向上に努めており、財務会計に関する監査結果の件数の減少は取組の成果と言えるが、毎年のように発生する事務処理ミスに対しては、担当者の資質向上とともに、事務の適正な執行を確保する体制づくりが重要である。

今後も正確な会計事務の大切さを認識したうえで、職場内の実効性のあるチェック機能の強化はもとより、制度や仕組みの再点検を行うなど、適正な会計事務の執行に努められたい。

監査結果別の件数

(単位:件)

| 監査結果 | 平成 27 年度 | 平成 28 年度 | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | H30-H29 |
|--------|----------|----------|----------|------------|-----------|
| 指 摘 | 27 | 18 | 25 | 26 | 1 |
| 注 意 | 97 | 80 | 49 | 56 | 7 |
| 指 導 | 144 | 183 | 132 | 144 | 12 |
| 意 見 | 26 | 25 | 21 | 21 | 0 |
| 指導(検討) | 9 | 6 | 1 | 8 | 7 |
| 合 計 | 303 | 312 | 228 | 255 | 27 |

監査結果(指摘等)の項目別件数

(単位:件)

| 項 目 | | 平成 27 年度 | 平成 28 年度 | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | H30-H29 |
|-----|--------------|----------|----------|----------|-----------|------------|
| 県 | 事務事業 | 144 | 124 | 115 | 129 | 14 |
| | 職員の交通加害事故等 | 52 | 53 | 49 | 60 | 11 |
| | 事務事業執行への意見 | 29 | 26 | 21 | 27 | 6 |
| | 業務上の不適切な取扱い | 30 | 29 | 33 | 25 | △8 |
| | その他 | 33 | 16 | 12 | 17 | 5 |
| | 財務会計 | 119 | 122 | 68 | 55 | △13 |
| | 収入関係 | 28 | 30 | 27 | 22 | △5 |
| | うち収入未済金の状況 | 10 | 15 | 10 | 11 | 1 |
| | 支出関係 | 18 | 35 | 17 | 9 | △8 |
| | 契約関係 | 33 | 32 | 15 | 18 | 3 |
| | 財産関係 | 32 | 24 | 8 | 6 | △2 |
| | その他 | 8 | 1 | 1 | 0 | △1 |
| | 工事技術関係 | 29 | 36 | 37 | 55 | 18 |
| | 財政的援助団体の財務会計 | 11 | 30 | 8 | 16 | 8 |
| 合 計 | 303 | 312 | 228 | 255 | 27 | |

イ 財産管理等について

財産管理に係る事務については、「指摘」となるような重大な誤りはなかったが、研究用備品を亡失し「注意」となった案件が発生したほか、財産台帳の除却漏れ、材料品受払簿の未作成などの、事務処理上の不適切な事例が散見されている。県有財産は、県民の財産であるという意識をもって適切な管理に努められたい。

一方で、県では、平成25年度にファシリティマネジメントの実施方針を作成し、「総量適正化」、「施設の長寿命化」、「維持管理経費の最適化」、「施設の有効活用」の4本柱により、経営的な視点から県有施設を総合的に企画・管理・活用する取組を行っている。とりわけ、未利用財産の売却については、平成20年度から5年ごとに売却計画を策定し未利用地の売却を進めてきている。平成30年度を計画初年度とする「県有財産の売却計画」においては、5か年で55億6,500万円余の売却を進めていくこととし、平成30年度は、10億6,900万円余を売却し、売却計画に対する達成率は19.2%であった。未利用財産は境界確定の状況などにより売却時期が変動したり、計画外であっても新たに売却が可能となることもあるため、毎年度、最新の売却対象を整理した上で、今後も計画的かつ積極的に売却を進め、「総量適正化」を推進されたい。

さらに、「施設の長寿命化」、「維持管理経費の最適化」、「施設の有効活用」についても、引き続き、積極的に取り組まされたい。

平成20～24年度売却計画と実績

(単位:千円)

| 区分 | 計画額 | 売却額 | 未売却 | 備考 |
|-----|------------|------------------|-----------|-------------------------|
| 計画内 | 11,830,933 | 7,818,231 | 4,140,041 | うち2,557,318千円を次期売却計画に計上 |
| 計画外 | — | 988,380 | — | |
| 計 | 11,830,933 | 8,806,611 | 4,140,041 | 達成率 74.4% |

平成25～29年度売却計画と実績

(単位:千円)

| 区分 | 計画額 | 売却額 | 未売却 | 備考 |
|-----|-----------|------------------|-----------|-------------------------|
| 計画内 | 8,911,242 | 3,492,969 | 3,792,519 | うち1,160,637千円を次期売却計画に計上 |
| 計画外 | — | 3,253,565 | — | |
| 計 | 8,911,242 | 6,746,534 | 3,792,519 | 達成率 75.7% |

平成30～令和4年度売却計画と実績

(単位:千円)

| 区分 | 計画額 | 売却額 | 未売却 | 備考 |
|-----|-----------|------------------|-----------|-----------|
| 計画内 | 5,565,168 | 945,583 | 4,619,585 | |
| 計画外 | — | 124,239 | — | |
| 計 | 5,565,168 | 1,069,822 | | 達成率 19.2% |

各 論

I 決算の概要

1 歳入歳出決算

(1) 歳入歳出

平成 30 年度一般会計及び特別会計の決算の状況は、次のとおりである。

ア 歳 入

| 年度 | 会計別 | 予算現額 A | 調定額 B | 収入済額 C | 不納欠損額 D | 収入未済額 B-(C+D) | 予算現額に 対する割合 | | 収入 割合 C/B |
|------------------|-----|------------------------|------------------------|------------------------|------------------|--------------------|----------------|-----------|-----------------|
| | | | | | | | B/A | C/A | |
| 30 | 一般 | 円 1,249,315,700,000 | 円 1,200,379,979,164 | 円 1,192,477,791,411 | 円 734,129,298 | 円 7,168,058,455 | % 96.1 | % 95.5 | % 99.3 |
| | 特別 | 813,035,036,000 | 816,649,406,871 | 813,898,306,955 | 25,589,572 | 2,725,510,344 | 100.4 | 100.1 | 99.7 |
| | 計 | 2,062,350,736,000 | 2,017,029,386,035 | 2,006,376,098,366 | 759,718,870 | 9,893,568,799 | 97.8 | 97.3 | 99.5 |
| 29 | 一般 | 1,277,153,132,000 | 1,236,833,093,518 | 1,227,774,130,573 | 860,264,519 | 8,198,698,426 | 96.8 | 96.1 | 99.3 |
| | 特別 | 471,280,770,000 | 474,025,510,977 | 471,256,351,876 | 12,852,832 | 2,756,306,269 | 100.6 | 99.9 | 99.4 |
| | 計 | 1,748,433,902,000 | 1,710,858,604,495 | 1,699,030,482,449 | 873,117,351 | 10,955,004,695 | 97.9 | 97.2 | 99.3 |
| 比較 増減 | 一般 | △27,837,432,000 | △36,453,114,354 | △35,296,339,162 | △126,135,221 | △1,030,639,971 | △0.7 | △0.6 | 0.0 |
| | 特別 | 341,754,266,000 | 342,623,895,894 | 342,641,955,079 | 12,736,740 | △30,795,925 | △0.2 | 0.2 | 0.3 |
| | 計 | 313,916,834,000 | 306,170,781,540 | 307,345,615,917 | △113,398,481 | △1,061,435,896 | △0.1 | 0.1 | 0.2 |
| 前 年 度 比 | 一般 | % 97.8 | % 97.1 | % 97.1 | % 85.3 | % 87.4 | — | — | — |
| | 特別 | 172.5 | 172.3 | 172.7 | 199.1 | 98.9 | — | — | — |
| | 計 | 118.0 | 117.9 | 118.1 | 87.0 | 90.3 | — | — | — |

一般会計の歳入決算額は 1 兆 1,924 億 7,779 万 1,411 円で、前年度 1 兆 2,277 億 7,413 万 573 円に比べ 352 億 9,633 万 9,162 円、2.9%の減少となった。

特別会計の歳入決算額は 8,138 億 9,830 万 6,955 円で、前年度 4,712 億 5,635 万 1,876 円に比べ 3,426 億 4,195 万 5,079 円、72.7%の増加となった。

また、一般会計と特別会計を合計した歳入決算額は、2 兆 63 億 7,609 万 8,366 円で、前年度の合計額 1 兆 6,990 億 3,048 万 2,449 円に比べ 3,073 億 4,561 万 5,917 円、18.1%の増加となった。

収入未済額は、一般会計が 71 億 6,805 万 8,455 円、特別会計が 27 億 2,551 万 344 円、合計 98 億 9,356 万 8,799 円である。これは前年度の合計額 109 億 5,500 万 4,695 円に比べ 10 億 6,143 万 5,896 円、9.7%の減少となった。

イ 歳 出

| 年度 | 会計別 | 予算現額 A | 支出済額 B | 翌年度繰越額 C | 不用額 A-(B+C) | 執行率 B/A |
|------|-----|------------------------|------------------------|---------------------|---------------------|--------------|
| 30 | 一般 | 円 1,249,315,700,000 | 円 1,179,481,671,874 | 円 58,503,348,000 | 円 11,330,680,126 | % 94.4 |
| | 特別 | 813,035,036,000 | 804,947,739,044 | 1,570,101,000 | 6,517,195,956 | 99.0 |
| | 計 | 2,062,350,736,000 | 1,984,429,410,918 | 60,073,449,000 | 17,847,876,082 | 96.2 |
| 29 | 一般 | 1,277,153,132,000 | 1,214,905,347,297 | 48,423,700,000 | 13,824,084,703 | 95.1 |
| | 特別 | 471,280,770,000 | 468,011,717,429 | 1,646,788,000 | 1,622,264,571 | 99.3 |
| | 計 | 1,748,433,902,000 | 1,682,917,064,726 | 50,070,488,000 | 15,446,349,274 | 96.3 |
| 比較増減 | 一般 | 円 △27,837,432,000 | 円 △35,423,675,423 | 円 10,079,648,000 | 円 △2,493,404,577 | ポイント △0.7 |
| | 特別 | 341,754,266,000 | 336,936,021,615 | △76,687,000 | 4,894,931,385 | △0.3 |
| | 計 | 313,916,834,000 | 301,512,346,192 | 10,002,961,000 | 2,401,526,808 | △0.1 |
| 前年度比 | 一般 | % 97.8 | % 97.1 | % 120.8 | % 82.0 | — |
| | 特別 | 172.5 | 172.0 | 95.3 | 401.7 | — |
| | 計 | 118.0 | 117.9 | 120.0 | 115.5 | — |

一般会計の歳出決算額は 1 兆 1,794 億 8,167 万 1,874 円で、前年度 1 兆 2,149 億 534 万 7,297 円に比べ 354 億 2,367 万 5,423 円、2.9%の減少となった。

特別会計の歳出決算額は 8,049 億 4,773 万 9,044 円で、前年度 4,680 億 1,171 万 7,429 円に比べ 3,369 億 3,602 万 1,615 円、72.0%の増加となった。

また、一般会計と特別会計を合計した歳出決算額は、1 兆 9,844 億 2,941 万 918 円で、前年度の合計額 1 兆 6,829 億 1,706 万 4,726 円に比べ 3,015 億 1,234 万 6,192 円、17.9%の増加となった。

翌年度繰越額は、一般会計が 585 億 334 万 8,000 円、特別会計が 15 億 7,010 万 1,000 円、合計 600 億 7,344 万 9,000 円で、前年度の合計額 500 億 7,048 万 8,000

円に比べ 100 億 296 万円 1,000 円、20.0%の増加となった。これは一般会計で 100 億 7,964 万 8,000 円増加したためである。

不用額は、一般会計が 113 億 3,068 万 126 円、特別会計が 65 億 1,719 万 5,956 円、合計 178 億 4,787 万 6,082 円で、前年度の合計額 154 億 4,634 万 9,274 円に比べ 24 億 152 万 6,808 円、15.5%の増加となった。これは特別会計で 48 億 9,493 万 1,385 円増加したためである。

ウ 決算収支額

| 年度 | 会計別 | 歳入決算額 A | 歳出決算額 B | 歳入歳出差引額 C=A-B | 翌年度へ繰越 すべき財源 D | 実質収支額 C-D |
|------|-----|------------------------|------------------------|---------------------|--------------------|--------------------|
| 30 | 一般 | 円 1,192,477,791,411 | 円 1,179,481,671,874 | 円 12,996,119,537 | 円 8,018,433,365 | 円 4,977,686,172 |
| | 特別 | 813,898,306,955 | 804,947,739,044 | 8,950,567,911 | 226,914,733 | 8,723,653,178 |
| | 計 | 2,006,376,098,366 | 1,984,429,410,918 | 21,946,687,448 | 8,245,348,098 | 13,701,339,350 |
| 29 | 一般 | 1,227,774,130,573 | 1,214,905,347,297 | 12,868,783,276 | 7,850,786,815 | 5,017,996,461 |
| | 特別 | 471,256,351,876 | 468,011,717,429 | 3,244,634,447 | 232,154,946 | 3,012,479,501 |
| | 計 | 1,699,030,482,449 | 1,682,917,064,726 | 16,113,417,723 | 8,082,941,761 | 8,030,475,962 |
| 比較増減 | 一般 | △35,296,339,162 | △35,423,675,423 | 127,336,261 | 167,646,550 | △40,310,289 |
| | 特別 | 342,641,955,079 | 336,936,021,615 | 5,705,933,464 | △5,240,213 | 5,711,173,677 |
| | 計 | 307,345,615,917 | 301,512,346,192 | 5,833,269,725 | 162,406,337 | 5,670,863,388 |
| 前年度比 | 一般 | % 97.1 | % 97.1 | % 101.0 | % 102.1 | % 99.2 |
| | 特別 | 172.7 | 172.0 | 275.9 | 97.7 | 289.6 |
| | 計 | 118.1 | 117.9 | 136.2 | 102.0 | 170.6 |

歳入歳出差引額は、一般会計が 129 億 9,611 万 9,537 円、特別会計が 89 億 5,056 万 7,911 円、合計 219 億 4,668 万 7,448 円で、前年度の合計額 161 億 1,341 万 7,723 円に比べ 58 億 3,326 万 9,725 円、36.2%の増加となった。

歳入歳出差引額から翌年度へ繰越すべき財源を差し引いた実質収支額は、一般会計が 49 億 7,768 万 6,172 円、特別会計が 87 億 2,365 万 3,178 円、合計 137 億 133 万 9,350 円で、前年度の合計額 80 億 3,047 万 5,962 円に比べ 56 億 7,086 万 3,388 円、70.6%の増加となった。

(2) 純計決算

一般会計及び特別会計間で相互に繰入れ・繰出しする重複額を控除した純計決算額は、次の表のとおりである。

| 区 分 | | 一般会計 | 特別会計 | 合 計 |
|---------------|--------------|------------------------|----------------------|------------------------|
| 歳 入 | 決 算 額 A | 円 1,192,477,791,411 | 円 813,898,306,955 | 円 2,006,376,098,366 |
| | 繰 入 額 B | 5,460,573,467 | 206,062,290,954 | 211,522,864,421 |
| | 純計決算額 (A-B)C | 1,187,017,217,944 | 607,836,016,001 | 1,794,853,233,945 |
| 歳 出 | 決 算 額 D | 1,179,481,671,874 | 804,947,739,044 | 1,984,429,410,918 |
| | 繰 出 額 E | 206,062,290,954 | 5,460,573,467 | 211,522,864,421 |
| | 純計決算額 (D-E)F | 973,419,380,920 | 799,487,165,577 | 1,772,906,546,497 |
| 差引純計決算額 (C-F) | | 213,597,837,024 | △191,651,149,576 | 21,946,687,448 |

| 区 分 | | 平成 30 年度会計 | 平成 29 年度会計 | 比較増減 | |
|-------------|--------------------|---------------------|---------------------|-------------------|-----------|
| | | | | 金 額 | 増減率 |
| 歳 入 | 決 算 額 A | 千円 2,006,376,098 | 千円 1,699,030,482 | 千円 307,345,616 | % 18.1 |
| | 繰 入 額 B | 211,522,864 | 192,883,949 | 18,638,915 | 9.7 |
| | 純計決算額 (A - B) C | 1,794,853,234 | 1,506,146,533 | 288,706,701 | 19.2 |
| 歳 出 | 決 算 額 D | 1,984,429,411 | 1,682,917,064 | 301,512,347 | 17.9 |
| | 繰 出 額 E | 211,522,864 | 192,883,949 | 18,638,915 | 9.7 |
| | 純計決算額 (D - E) F | 1,772,906,547 | 1,490,033,115 | 282,873,432 | 19.0 |
| 純 計 (C - F) | | 21,946,687 | 16,113,418 | 5,833,269 | 36.2 |

歳入の純計決算額は、1兆7,948億5,323万4千円で、前年度1兆5,061億4,653万3千円に比べ2,887億670万1千円、19.2%の増加となった。

歳出の純計決算額は、1兆7,729億654万7千円で、前年度1兆4,900億3,311万5千円に比べ2,828億7,343万2千円、19.0%の増加となった。

(3) 歳計現金等

一般会計及び特別会計の四半期別収支の状況は、次の表のとおりである。

一般会計

| 区 分 | 収入済額 | 構成割合 | | 支出済額 | 構成割合 | |
|--------|----------------------|-----------|-----------|----------------------|-----------|-----------|
| | | 平成30年度 | 平成29年度 | | 平成30年度 | 平成29年度 |
| 第1四半期 | 円 322,435,858,890 | % 27.0 | % 27.1 | 円 184,870,908,593 | % 15.7 | % 14.7 |
| 第2四半期 | 243,811,425,072 | 20.4 | 20.5 | 202,390,885,137 | 17.2 | 17.3 |
| 第3四半期 | 312,401,642,611 | 26.2 | 21.3 | 227,577,190,712 | 19.3 | 19.4 |
| 第4四半期 | 230,815,009,741 | 19.4 | 21.9 | 452,408,800,816 | 38.3 | 39.0 |
| 出納整理期間 | 83,013,855,097 | 7.0 | 9.2 | 112,233,886,616 | 9.5 | 9.6 |
| 合 計 | 1,192,477,791,411 | 100.0 | 100.0 | 1,179,481,671,874 | 100.0 | 100.0 |

特別会計

| 区 分 | 収入済額 | 構成割合 | | 支出済額 | 構成割合 | |
|--------|----------------------|-----------|-----------|----------------------|-----------|-----------|
| | | 平成30年度 | 平成29年度 | | 平成30年度 | 平成29年度 |
| 第1四半期 | 円 141,824,119,586 | % 17.4 | % 16.7 | 円 156,936,882,229 | % 19.5 | % 22.9 |
| 第2四半期 | 140,351,157,848 | 17.3 | 10.1 | 144,076,713,476 | 17.9 | 14.1 |
| 第3四半期 | 106,626,985,427 | 13.1 | 9.1 | 149,974,263,639 | 18.6 | 18.7 |
| 第4四半期 | 399,624,297,089 | 49.1 | 60.2 | 319,127,229,779 | 39.7 | 40.1 |
| 出納整理期間 | 25,471,747,005 | 3.1 | 3.9 | 34,832,649,921 | 4.3 | 4.2 |
| 合 計 | 813,898,306,955 | 100.0 | 100.0 | 804,947,739,044 | 100.0 | 100.0 |

一般会計で定めた一時借入金の最高限度額は1,500億円であるが、平成30年度は借入れを行っていない。

2 決算の分析

平成 30 年度一般会計における決算の分析は、次のとおりである。

(1) 決算収支の状況

| 区 分 | 平成 30 年度 | 平成 29 年度 | 比較増減 | |
|-------------------|---------------------|---------------------|-------------------|-----------|
| | | | 金 額 | 増減率 |
| 歳 入 (決 算 額) A | 千円 1,192,477,791 | 千円 1,227,774,130 | 千円 △35,296,339 | % △2.9 |
| 歳 出 (決 算 額) B | 1,179,481,672 | 1,214,905,347 | △35,423,675 | △2.9 |
| 歳入歳出差引額(A-B)C | 12,996,119 | 12,868,783 | 127,336 | 1.0 |
| 翌年度へ繰越すべき財源D | 8,018,433 | 7,850,787 | 167,646 | 2.1 |
| 実質収支額(C-D)E | 4,977,686 | 5,017,996 | △40,310 | △0.8 |
| 前年度実質収支額F | 5,017,996 | 5,502,117 | △484,121 | △8.8 |
| 単年度収支額(E-F)G | △40,310 | △484,121 | 443,811 | — |
| 財政調整基金積立額H | 952 | 102 | 850 | 833.3 |
| 県債繰上償還額I | 0 | 0 | 0 | — |
| 財政調整基金取崩し額J | 0 | 0 | 0 | — |
| 実質単年度収支額(G+H+I-J) | △39,358 | △484,019 | 444,661 | — |

一般会計の歳入歳出差引額は、129 億 9,611 万 9 千円となり、翌年度へ繰越すべき財源 80 億 1,843 万 3 千円を控除した実質収支額は、49 億 7,768 万 6 千円の黒字となった。

また、この実質収支額から前年度の実質収支額を差し引いた単年度収支額は、4,031 万円の赤字となり、これに財政調整基金積立額 95 万 2 千円を加えた実質単年度収支額は、3,935 万 8 千円の赤字となった。これは、前年度の実質単年度収支額の 4 億 8,401 万 9 千円の赤字に比べ、4 億 4,466 万 1 千円の赤字額の減少となった。

(2) 歳入歳出の構造

ア 財源別にみた歳入の構成は、次の表のとおりである。

一般財源等と特定財源

| 区 分 | 平成 30 年度 | | 平成 29 年度 | | 比較増減 | | 決算額 増減率 | |
|-----------------------|---------------|-------------------|---------------|-------------------|-------------|-------------------|-------------|-----------|
| | 決算額 | 構成比 | 決算額 | 構成比 | 決算額 | 構成比 | | |
| 一 般 財 源 等 | 県 税 | 千円 483,849,829 | % 40.6 | 千円 498,980,968 | % 40.6 | 千円 △15,131,139 | ポイント 0.0 | % △3.0 |
| | 地方消費税清算金 | 144,157,581 | 12.1 | 139,798,160 | 11.4 | 4,359,421 | 0.7 | 3.1 |
| | 地方譲与税 | 64,369,724 | 5.4 | 57,242,378 | 4.6 | 7,127,346 | 0.8 | 12.5 |
| | 地方特例交付金 | 1,711,525 | 0.2 | 1,496,363 | 0.1 | 215,162 | 0.1 | 14.4 |
| | 地方交付税 | 146,970,460 | 12.3 | 145,634,392 | 11.9 | 1,336,068 | 0.4 | 0.9 |
| | 交通安全対策特別交付金 | 1,133,498 | 0.1 | 1,202,934 | 0.1 | △69,436 | 0.0 | △5.8 |
| | 繰越金 | 12,868,783 | 1.1 | 14,071,438 | 1.1 | △1,202,655 | 0.0 | △8.5 |
| | 臨時財政対策債・減収補填債 | 77,108,000 | 6.4 | 90,900,000 | 7.5 | △13,792,000 | △1.1 | △15.2 |
| | その他 | 20,083,981 | 1.7 | 21,531,968 | 1.8 | △1,447,987 | △0.1 | △6.7 |
| | 計 | 952,253,381 | 79.9 | 970,858,601 | 79.1 | △18,605,220 | 0.8 | △1.9 |
| 特 定 財 源 | 分担金及び負担金 | 2,402,398 | 0.2 | 2,337,008 | 0.2 | 65,390 | 0.0 | 2.8 |
| | 使用料及び手数料 | 13,702,801 | 1.1 | 13,967,917 | 1.1 | △265,116 | 0.0 | △1.9 |
| | 国庫支出金 | 107,763,185 | 9.0 | 113,352,347 | 9.2 | △5,589,162 | △0.2 | △4.9 |
| | 財産収入 | 1,331,333 | 0.1 | 980,859 | 0.0 | 350,474 | 0.1 | 35.7 |
| | 寄附金 | 110,322 | 0.0 | 132,682 | 0.0 | △22,360 | 0.0 | △16.9 |
| | 繰入金 | 11,796,545 | 1.0 | 24,182,129 | 2.0 | △12,385,584 | △1.0 | △51.2 |
| | 諸収入 | 15,343,926 | 1.3 | 12,965,587 | 1.1 | 2,378,339 | 0.2 | 18.3 |
| | 県債 | 87,773,900 | 7.4 | 88,997,000 | 7.3 | △1,223,100 | 0.1 | △1.4 |
| 計 | 240,224,410 | 20.1 | 256,915,529 | 20.9 | △16,691,119 | △0.8 | △6.5 | |
| 合 計 | 1,192,477,791 | 100.0 | 1,227,774,130 | 100.0 | △35,296,339 | - | △2.9 | |

一般財源等は 9,522 億 5,338 万 1 千円で、前年度 9,708 億 5,860 万 1 千円に比べ 1.9%の減少となり、歳入総額に占める構成比は、79.9%と前年度より 0.8 ポイント増加した。

また、特定財源は 2,402 億 2,441 万円で、前年度 2,569 億 1,552 万 9 千円に比べ 6.5%の減少となり、歳入総額に占める構成比は、20.1%と前年度より 0.8 ポイント減少した。

自主財源と依存財源

| 区 分 | 平成 30 年度 | | 平成 29 年度 | | 比較増減 | | 決算額 増減率 | |
|------------------|-----------------|-------------|---------------|-------------|-------------|-------------|------------|-------|
| | 決算額 | 構成比 | 決算額 | 構成比 | 決算額 | 構成比 | | |
| 自 主 財 源 | 県 税 | 千円 | % | 千円 | % | 千円 | ポイント | % |
| | | 483,849,829 | 40.6 | 498,980,968 | 40.6 | △15,131,139 | 0.0 | △3.0 |
| | 地方消費税清算金 | 144,157,581 | 12.1 | 139,798,160 | 11.4 | 4,359,421 | 0.7 | 3.1 |
| | 分担金及び負担金 | 3,677,712 | 0.3 | 3,625,786 | 0.3 | 51,926 | 0.0 | 1.4 |
| | 使用料及び手数料 | 16,558,108 | 1.4 | 16,859,923 | 1.4 | △301,815 | 0.0 | △1.8 |
| | 財 産 収 入 | 2,691,130 | 0.2 | 1,847,818 | 0.2 | 843,312 | 0.0 | 45.6 |
| | 寄 附 金 | 115,207 | 0.0 | 140,132 | 0.0 | △24,925 | 0.0 | △17.8 |
| | 繰 入 金 | 16,549,587 | 1.4 | 30,878,984 | 2.5 | △14,329,397 | △1.1 | △46.4 |
| | 繰 越 金 | 12,868,783 | 1.1 | 14,071,438 | 1.1 | △1,202,655 | 0.0 | △8.5 |
| | 諸 収 入 | 25,178,671 | 2.1 | 22,736,605 | 1.9 | 2,442,066 | 0.2 | 10.7 |
| 計 | 705,646,608 | 59.2 | 728,939,814 | 59.4 | △23,293,206 | △0.2 | △3.2 | |
| 依 存 財 源 | 地 方 譲 与 税 | 64,369,724 | 5.4 | 57,242,378 | 4.6 | 7,127,346 | 0.8 | 12.5 |
| | 地方特例交付金 | 1,711,525 | 0.2 | 1,496,363 | 0.1 | 215,162 | 0.1 | 14.4 |
| | 地 方 交 付 税 | 146,970,460 | 12.3 | 145,634,392 | 11.9 | 1,336,068 | 0.4 | 0.9 |
| | 交通安全対策 特別交付金 | 1,133,498 | 0.1 | 1,202,934 | 0.1 | △69,436 | 0.0 | △5.8 |
| | 国 庫 支 出 金 | 107,764,076 | 9.0 | 113,361,249 | 9.2 | △5,597,173 | △0.2 | △4.9 |
| | 県 債 | 164,881,900 | 13.8 | 179,897,000 | 14.7 | △15,015,100 | △0.9 | △8.3 |
| | 計 | 486,831,183 | 40.8 | 498,834,316 | 40.6 | △12,003,133 | 0.2 | △2.4 |
| 合 計 | 1,192,477,791 | 100.0 | 1,227,774,130 | 100.0 | △35,296,339 | - | △2.9 | |

自主財源は7,056億4,660万8千円で、前年度7,289億3,981万4千円に比べ3.2%の減少となり、歳入総額に占める構成比(自主財源比率)は、59.2%と前年度より0.2ポイント減少した。

一方、依存財源は4,868億3,118万3千円で、前年度4,988億3,431万6千円に比べ2.4%の減少となり、歳入総額に占める構成比は40.8%と前年度より0.2ポイント増加した。自主財源比率が前年度より減少した要因は、自主財源である繰入金等が減少し、依存財源である地方譲与税等が増加したことによるものである。

イ 性質別にみた歳出の構成は、次の表のとおりである。

| 区 分 | 平成 30 年度 | | 平成 29 年度 | | 比較増減 | | 決算額 増減率 |
|---------|---------------|-------|---------------|-------|-------------|------|------------|
| | 決算額 | 構成比 | 決算額 | 構成比 | 決算額 | 構成比 | |
| | 千円 | % | 千円 | % | 千円 | ポイント | % |
| 義務的経費 | 599,323,503 | 50.8 | 595,581,021 | 49.0 | 3,742,482 | 1.8 | 0.6 |
| 人件費 | 300,476,745 | 25.5 | 300,596,903 | 24.7 | △120,158 | 0.8 | 0.0 |
| 扶助費 | 114,677,952 | 9.7 | 110,055,779 | 9.1 | 4,622,173 | 0.6 | 4.2 |
| 公債費 | 184,168,806 | 15.6 | 184,928,339 | 15.2 | △759,533 | 0.4 | △0.4 |
| 投資的経費 | 179,349,275 | 15.2 | 174,013,472 | 14.3 | 5,335,803 | 0.9 | 3.1 |
| 普通建設事業費 | 176,210,816 | 14.9 | 172,878,529 | 14.2 | 3,332,287 | 0.7 | 1.9 |
| 補助事業費 | 80,549,124 | 6.8 | 78,927,641 | 6.5 | 1,621,483 | 0.3 | 2.1 |
| 直轄事業負担金 | 15,030,993 | 1.3 | 13,268,271 | 1.1 | 1,762,722 | 0.2 | 13.3 |
| 単独事業費 | 80,170,647 | 6.8 | 80,233,194 | 6.6 | △62,547 | 0.2 | △0.1 |
| その他 | 460,052 | 0.0 | 449,423 | 0.0 | 10,629 | 0.0 | 2.4 |
| 災害復旧事業費 | 3,138,459 | 0.3 | 1,134,943 | 0.1 | 2,003,516 | 0.2 | 176.5 |
| 補助事業費 | 2,869,031 | 0.3 | 672,164 | 0.1 | 2,196,867 | 0.2 | 326.8 |
| 直轄事業負担金 | 199,861 | 0.0 | 430,804 | 0.0 | △230,943 | 0.0 | △53.6 |
| 単独事業費 | 69,567 | 0.0 | 31,975 | 0.0 | 37,592 | 0.0 | 117.6 |
| その他経費 | 400,808,894 | 34.0 | 445,310,854 | 36.7 | △44,501,960 | △2.7 | △10.0 |
| 行政費 | 39,182,819 | 3.3 | 37,699,220 | 3.1 | 1,483,599 | 0.2 | 3.9 |
| 維持補修費 | 3,000,534 | 0.3 | 2,236,448 | 0.2 | 764,086 | 0.1 | 34.2 |
| 奨励助成費 | 305,703,178 | 25.9 | 351,134,879 | 28.9 | △45,431,701 | △3.0 | △12.9 |
| 繰出金 | 29,360,659 | 2.5 | 9,957,908 | 0.8 | 19,402,751 | 1.7 | 194.8 |
| その他 | 23,561,704 | 2.0 | 44,282,399 | 3.7 | △20,720,695 | △1.7 | △46.8 |
| 合 計 | 1,179,481,672 | 100.0 | 1,214,905,347 | 100.0 | △35,423,675 | － | △2.9 |

義務的経費は5,993億2,350万3千円で、前年度5,955億8,102万1千円に比べ0.6%の増加となった。歳出総額に占める義務的経費の構成比(義務的経費比率)は、50.8%で前年度に比べ1.8ポイント増加した。

投資的経費は1,793億4,927万5千円で、前年度1,740億1,347万2千円に比べ3.1%の増加となった。歳出総額に占める投資的経費の構成比は15.2%で、前年度に比べ0.9ポイント増加した。

その他経費は4,008億889万4千円で、前年度4,453億1,085万4千円に比べ10.0%の減少となった。歳出総額に占めるその他経費の構成比は34.0%で、前年度に比べ2.7ポイント減少した。

(3) 経常収支比率の推移

| 区 分 | | 平成 28 年度 | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 |
|------------------|-------|-------------|--------------|-------------|
| 経 常 収 支 比 率 | | % 97.6 | % 94.5 | % 95.2 |
| 主 な 内 訳 | 人 件 費 | 40.9 | 35.5 | 35.4 |
| | 扶 助 費 | 1.2 | 1.2 | 1.1 |
| | 公 債 費 | 24.4 | 25.1 | 25.0 |
| 対 前 年 度 増 減 | | ポイント 2.7 | ポイント △3.1 | ポイント 0.7 |

人件費、扶助費、公債費等の毎年度経常的に支出される経費に、地方税等のように用途が特定されていない経常的な歳入(一般財源)が充当された度合いを示す経常収支比率については、95.2%で、前年度より0.7ポイント悪化した。

(4) 財政力指数の推移

| 区 分 | | 平成 28 年度 | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 |
|-------------|--|---------------|---------------|----------------|
| 財 政 力 指 数 | | 0.720 | 0.728 | 0.725 |
| 対 前 年 度 増 減 | | ポイント 0.010 | ポイント 0.008 | ポイント △0.003 |

※財政力指数は過去3年間の平均であり、単位はない。

地方公共団体の財政力を示す指数である財政力指数については0.725であり、前年度より0.003ポイント減少した。

(5) 実質公債費比率の推移

| 区 分 | | 平成 28 年度 | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 |
|---------------|--|--------------|--------------|-------------|
| 実 質 公 債 費 比 率 | | % 13.5 | % 13.4 | % 13.4 |
| 対 前 年 度 増 減 | | ポイント △0.5 | ポイント △0.1 | ポイント 0.0 |

公債費による財政負担の度合いを判断する指標の一つである実質公債費比率は13.4%であり、前年度と変わらなかった。

(6) 将来負担比率の推移

| 区 分 | | 平成 28 年度 | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 |
|-------------|--|-------------|--------------|-------------|
| 将 来 負 担 比 率 | | % 228.0 | % 238.4 | % 240.2 |
| 対 前 年 度 増 減 | | ポイント 4.9 | ポイント 10.4 | ポイント 1.8 |

地方公共団体の一般会計等の借入金(地方債)や将来支払する可能性のある負担等の現時点での残高を指標化し、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示す指標である将来負担比率は240.2%で、前年度より1.8ポイント悪化した。

(7) 県債及び債務負担の推移

ア 県債現在高

| 区 分 | 平成 28 年度 | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 |
|-------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 県 債 現 在 高 | 千円 2,708,153,258 | 千円 2,735,265,233 | 千円 2,745,924,169 |
| 対 前 年 度 増 減 | 千円 △1,764,231 | 千円 27,111,975 | 千円 10,658,936 |

県債現在高は2兆7,459億2,416万9千円で、前年度に比べ106億5,893万6千円増加した。

イ 債務負担行為に基づく翌年度以降債務負担額

| 区 分 | 平成 28 年度 | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 |
|-------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 翌年度以降の債務負担額 | 千円 164,985,983 | 千円 153,748,411 | 千円 174,294,197 |
| 対 前 年 度 増 減 | 千円 △12,026,825 | 千円 △11,237,572 | 千円 20,545,786 |

債務負担行為に基づく翌年度以降の債務負担額は、1,742億9,419万7千円で、前年度に比べ205億4,578万6千円増加した。

3 財産の状況

財産の状況は、次の表のとおりである。

| 区 分 | | 平成 29 年度末現在高 | 平成 30 年度中増減高 | 平成 30 年度末現在高 | |
|------------------|----------------|------------------------------|--------------------------|------------------------------|------------|
| 公 有 財 産 | 土 地 | 47,627,476.56 m ² | 17,593.95 m ² | 47,645,070.51 m ² | |
| | 建 物 | 3,972,790.83 m ² | △7,043.65 m ² | 3,965,747.18 m ² | |
| | 立 木 | 863,002.00 m ³ | 9,533.00 m ³ | 872,535.00 m ³ | |
| | 動 産 | 船 舶 | 787.00 総トン | 0 総トン | 787.00 総トン |
| | | 航 空 機 | 1 機 | 1 機 | 2 機 |
| | 物 権 (地 上 権 等) | 26,354,785.57 m ² | 0.00 m ² | 26,354,785.57 m ² | |
| | 無 体 財 産 権 | 168 件 | 0 件 | 168 件 | |
| | 有 価 証 券 | 324,593 千円 | 0 千円 | 324,593 千円 | |
| 出 資 に よ る 権 利 | 107,512,499 千円 | 115,094 千円 | 107,627,593 千円 | | |
| 債 権 | 54,259,048 千円 | 3,293,896 千円 | 57,552,944 千円 | | |
| 基 金 | 614,550,453 千円 | 30,642,346 千円 | 645,192,799 千円 | | |

- (1) 土地の増加の主なものは、急傾斜地崩壊危険区域、遠州灘沿岸浜松海岸(浜松篠原地区)等である。
- (2) 建物の減少の主なものは、周智高等学校、西部特別支援学校等である。
- (3) 立木(立木推定蓄積量)の増加は、県営林全体の実査による増加等によるものである。
- (4) 動産(航空機)の増加は、防災ヘリコプターの買入れによるものである。
- (5) 物権(地上権等)・無体財産権・有価証券は、増減なし。
- (6) 出資による権利の増加の主なものは、静岡県大井川広域水道企業団出資金等である。
- (7) 債権の増加の主なものは、静岡県立病院機構貸付金、中小企業振興資金貸付金等である。
- (8) 基金の増加の主なものは、静岡県県債管理基金等である。

Ⅱ 会計別決算の状況

1 一般会計歳入

歳入決算額は、次の表のとおりである。

| 区 分 | 平成 30 年 | | | | |
|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------|---------------|
| | 予算現額 | 調定額 | 収入済額 | 不納欠損額 | 収入未済額 |
| | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 |
| 1 県 税 | 483,600,000,000 | 490,230,679,047 | 483,849,828,662 | 698,480,127 | 5,682,370,258 |
| 2 地方消費税 清算金 | 144,196,000,000 | 144,157,580,808 | 144,157,580,808 | 0 | 0 |
| 3 地方譲与税 | 64,200,000,000 | 64,369,724,000 | 64,369,724,000 | 0 | 0 |
| 4 地方特例 交付金 | 1,711,000,000 | 1,711,525,000 | 1,711,525,000 | 0 | 0 |
| 5 地方交付税 | 146,817,004,000 | 146,970,460,000 | 146,970,460,000 | 0 | 0 |
| 6 交通安全対策 特別交付金 | 1,100,000,000 | 1,133,498,000 | 1,133,498,000 | 0 | 0 |
| 7 分担金及び 負担金 | 3,688,570,000 | 3,677,712,527 | 3,677,712,527 | 0 | 0 |
| 8 使用料及び 手数料 | 16,560,598,000 | 16,578,436,338 | 16,558,108,090 | 68,906 | 20,259,342 |
| 9 国庫支出金 | 140,488,714,185 | 107,764,075,851 | 107,764,075,851 | 0 | 0 |
| 10 財産収入 | 2,655,476,000 | 2,713,179,689 | 2,691,130,419 | 1,082,416 | 20,966,854 |
| 11 寄附金 | 111,112,000 | 115,206,918 | 115,206,918 | 0 | 0 |
| 12 繰入金 | 19,965,268,000 | 16,549,586,969 | 16,549,586,969 | 0 | 0 |
| 13 繰越金 | 12,868,782,815 | 12,868,783,276 | 12,868,783,276 | 0 | 0 |
| 14 諸収入 | 25,337,175,000 | 26,657,630,741 | 25,178,670,891 | 34,497,849 | 1,444,462,001 |
| 15 県 債 | 186,016,000,000 | 164,881,900,000 | 164,881,900,000 | 0 | 0 |
| 合 計 | 1,249,315,700,000 | 1,200,379,979,164 | 1,192,477,791,411 | 734,129,298 | 7,168,058,455 |

| 度 | | | 平成 29 年度 | | 収入済額 前年度比 |
|-------------------|----------------|---------------|-------------------|---------------|--------------|
| 予算現額と収入 済額との比較 | 予算現額対 する収入率 | 調定額対 する収入率 | 収入済額 | 調定額対 する収入率 | |
| 円 | % | % | 円 | % | % |
| 249,828,662 | 100.1 | 98.7 | 498,980,967,837 | 98.5 | 97.0 |
| △38,419,192 | 99.9 | 100.0 | 139,798,159,525 | 100.0 | 103.1 |
| 169,724,000 | 100.3 | 100.0 | 57,242,378,000 | 100.0 | 112.5 |
| 525,000 | 100.0 | 100.0 | 1,496,363,000 | 100.0 | 114.4 |
| 153,456,000 | 100.1 | 100.0 | 145,634,392,000 | 100.0 | 100.9 |
| 33,498,000 | 103.0 | 100.0 | 1,202,934,000 | 100.0 | 94.2 |
| △10,857,473 | 99.7 | 100.0 | 3,625,786,545 | 100.0 | 101.4 |
| △2,489,910 | 99.9 | 99.9 | 16,859,922,912 | 99.9 | 98.2 |
| △32,724,638,334 | 76.7 | 100.0 | 113,361,249,499 | 100.0 | 95.1 |
| 35,654,419 | 101.3 | 99.2 | 1,847,817,650 | 98.8 | 145.6 |
| 4,094,918 | 103.7 | 100.0 | 140,132,194 | 100.0 | 82.2 |
| △3,415,681,031 | 82.9 | 100.0 | 30,878,984,497 | 100.0 | 53.6 |
| 461 | 100.0 | 100.0 | 14,071,438,127 | 100.0 | 91.5 |
| △158,504,109 | 99.4 | 94.5 | 22,736,604,787 | 94.0 | 110.7 |
| △21,134,100,000 | 88.6 | 100.0 | 179,897,000,000 | 100.0 | 91.7 |
| △56,837,908,589 | 95.5 | 99.3 | 1,227,774,130,573 | 99.3 | 97.1 |

| 区 分 | 平成 30 年度 | | 平成 29 年度 | | 比較増減 | | 増減率 |
|-------------------|-------------------|-----------|-------------------|-----------|-------------------|-------------|-----------|
| | 収入済額 | 構成比 | 収入済額 | 構成比 | 収入済額 | 構成比 | |
| 1 県 税 | 千円 483,849,829 | % 40.6 | 千円 498,980,968 | % 40.6 | 千円 △15,131,139 | ポイント 0.0 | % △3.0 |
| 2 地方消費税 清算金 | 144,157,581 | 12.1 | 139,798,160 | 11.4 | 4,359,421 | 0.7 | 3.1 |
| 3 地方譲与税 | 64,369,724 | 5.4 | 57,242,378 | 4.6 | 7,127,346 | 0.8 | 12.5 |
| 4 地方特例 交付金 | 1,711,525 | 0.2 | 1,496,363 | 0.1 | 215,162 | 0.1 | 14.4 |
| 5 地方交付税 | 146,970,460 | 12.3 | 145,634,392 | 11.9 | 1,336,068 | 0.4 | 0.9 |
| 6 交通安全対策 特別交付金 | 1,133,498 | 0.1 | 1,202,934 | 0.1 | △69,436 | 0.0 | △5.8 |
| 7 分担金及び 負担金 | 3,677,712 | 0.3 | 3,625,786 | 0.3 | 51,926 | 0.0 | 1.4 |
| 8 使用料及び 手数料 | 16,558,108 | 1.4 | 16,859,923 | 1.4 | △301,815 | 0.0 | △1.8 |
| 9 国庫支出金 | 107,764,076 | 9.0 | 113,361,249 | 9.2 | △5,597,173 | △0.2 | △4.9 |
| 10 財産収入 | 2,691,130 | 0.2 | 1,847,818 | 0.2 | 843,312 | 0.0 | 45.6 |
| 11 寄 附 金 | 115,207 | 0.0 | 140,132 | 0.0 | △24,925 | 0.0 | △17.8 |
| 12 繰 入 金 | 16,549,587 | 1.4 | 30,878,984 | 2.5 | △14,329,397 | △1.1 | △46.4 |
| 13 繰 越 金 | 12,868,783 | 1.1 | 14,071,438 | 1.1 | △1,202,655 | 0.0 | △8.5 |
| 14 諸 収 入 | 25,178,671 | 2.1 | 22,736,605 | 1.9 | 2,442,066 | 0.2 | 10.7 |
| 15 県 債 | 164,881,900 | 13.8 | 179,897,000 | 14.7 | △15,015,100 | △0.9 | △8.3 |
| 合 計 | 1,192,477,791 | 100.0 | 1,227,774,130 | 100.0 | △35,296,339 | — | △2.9 |

(1) 収入済額 1 兆 1,924 億 7,779 万 1 千円は、予算現額 1 兆 2,493 億 1,570 万円に対し、568 億 3,790 万 9 千円の減少となった。増減の内訳は、国庫支出金 327 億 2,463 万 8 千円、県債 211 億 3,410 万円、繰入金 34 億 1,568 万 1 千円の減少及び県税 2 億 4,982 万 9 千円、地方譲与税 1 億 6,972 万 4 千円の増加等である。

また、前年度の収入済額 1 兆 2,277 億 7,413 万円に比べ、352 億 9,633 万 9 千円、2.9%の減少となった。

(2) 収入済額の款別構成比は、県税が 40.6%で最も大きく、次いで県債 13.8%、地方交付税 12.3%、地方消費税清算金 12.1%、国庫支出金 9.0%の順となった。

(3) 調定額 1 兆 2,003 億 7,997 万 9 千円に対する収入率は 99.3%で、前年度と同ポイントである。

(4) 不納欠損額 7 億 3,412 万 9 千円の内訳は、県税 6 億 9,848 万円、諸収入 3,449 万 8 千円、財産収入 108 万 2 千円、使用料及び手数料 6 万 9 千円である。

なお、これらは地方自治法及び地方税法の規定に基づき欠損処分としたものである。

(5) 収入未済額 71 億 6,805 万 8 千円の内訳は、県税 56 億 8,237 万円、諸収入 14 億 4,446 万 2 千円、財産収入 2,096 万 7 千円、使用料及び手数料 2,025 万 9 千円である。

実収入未済額の状況

| 区 分 | 収入未済額 A | 徴収猶予額 B | 執行停止額 C | 納期限未到来 D | 実収入未済額 A-B-C-D | 平成 29 年度 実収入未済額 | 比較増減 | |
|------|------------|------------|------------|-------------|-------------------|--------------------|------------|-------|
| | | | | | | | 金 額 | 増減率 |
| | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | % |
| 一般会計 | 7,168,058 | 99,352 | 262,529 | 133 | 6,806,044 | 7,793,733 | △987,689 | △12.7 |
| 県税関係 | 5,741,838 | 98,658 | 245,369 | 133 | 5,397,678 | 6,420,344 | △1,022,666 | △15.9 |
| 県税 | 5,682,370 | 98,658 | 241,059 | 133 | 5,342,520 | 6,361,703 | △1,019,183 | △16.0 |
| 加算金 | 59,468 | 0 | 4,310 | 0 | 55,158 | 58,641 | △3,483 | △5.9 |
| 県税以外 | 1,426,220 | 694 | 17,160 | 0 | 1,408,366 | 1,373,389 | 34,977 | 2.5 |
| 特別会計 | 2,725,510 | 0 | 1,909 | 0 | 2,723,601 | 2,756,306 | △32,705 | △1.2 |
| 合 計 | 9,893,568 | 99,352 | 264,438 | 133 | 9,529,645 | 10,550,039 | △1,020,394 | △9.7 |

(6) 収入未済額のうち、県税の徴収猶予等を除いた一般会計の実収入未済額は、68 億 604 万 4 千円、特別会計の実収入未済額は 27 億 2,360 万 1 千円で、合計 95 億 2,964 万 5 千円となり、前年度の合計額 105 億 5,003 万 9 千円に比べ 10 億 2,039 万 4 千円、9.7%の減少となった。

不納欠損及び収入未済の状況は次のとおりである。

第1款 県 税

| 予算現額 | 調定額 | 収入済額 | 不納欠損額 | 収入未済額 | 予算現額と収入済額との比較 | 予算現額に対する収入率 | 調定額に対する収入率 |
|-----------------|-----------------|-----------------|-------------|---------------|---------------|-------------|------------|
| 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | % | % |
| 483,600,000,000 | 490,230,679,047 | 483,849,828,662 | 698,480,127 | 5,682,370,258 | 249,828,662 | 100.1 | 98.7 |

県税決算額の内訳と前年度比較

| 区 分 | 平成 30 年度 | | 平成 29 年度 | | 比較増減 | | 増減率 |
|-----------|-----------------|------|-----------------|------|-----------------|------|-------|
| | 収入済額 | 構成比 | 収入済額 | 構成比 | 収入済額 | 構成比 | |
| 県 税 | 円 | % | 円 | % | 円 | ポイント | % |
| 1 個人県民税 | 124,072,601,803 | 25.6 | 150,225,504,585 | 30.1 | △26,152,902,782 | △4.5 | △17.4 |
| 2 法人県民税 | 19,713,420,888 | 4.1 | 17,909,811,451 | 3.6 | 1,803,609,437 | 0.5 | 10.1 |
| 3 県民税利子割 | 1,778,700,071 | 0.4 | 1,818,800,465 | 0.4 | △40,100,394 | 0.0 | △2.2 |
| 4 個人事業税 | 5,775,724,164 | 1.2 | 5,628,639,020 | 1.1 | 147,085,144 | 0.1 | 2.6 |
| 5 法人事業税 | 128,777,903,376 | 26.6 | 119,891,179,151 | 24.0 | 8,886,724,225 | 2.6 | 7.4 |
| 6 地方消費税 | 85,713,142,867 | 17.7 | 86,069,982,927 | 17.2 | △356,840,060 | 0.5 | △0.4 |
| 7 不動産取得税 | 10,948,456,425 | 2.3 | 11,267,691,019 | 2.3 | △319,234,594 | 0.0 | △2.8 |
| 8 県たばこ税 | 3,813,303,367 | 0.8 | 3,885,290,043 | 0.8 | △71,986,676 | 0.0 | △1.9 |
| 9 ゴルフ場利用税 | 2,423,440,925 | 0.5 | 2,516,434,850 | 0.5 | △92,993,925 | 0.0 | △3.7 |
| 10 自動車取得税 | 6,703,590,700 | 1.4 | 6,353,806,500 | 1.3 | 349,784,200 | 0.1 | 5.5 |
| 11 軽油引取税 | 38,592,546,858 | 8.0 | 38,136,072,350 | 7.6 | 456,474,508 | 0.4 | 1.2 |
| 12 自動車税 | 54,253,984,318 | 11.2 | 53,991,132,776 | 10.8 | 262,851,542 | 0.4 | 0.5 |
| 13 鉱区税 | 3,930,500 | 0.0 | 3,928,500 | 0.0 | 2,000 | 0.0 | 0.1 |
| 14 核燃料税 | 1,240,416,000 | 0.2 | 1,240,416,000 | 0.3 | 0 | △0.1 | 0.0 |
| 15 狩猟税 | 38,666,400 | 0.0 | 42,278,200 | 0.0 | △3,611,800 | 0.0 | △8.5 |

不納欠損額の内訳と前年度比較

| 区 分 | | 平成 30 年度 | 平成 29 年度 | 比較増減 | |
|-------|-----------------------------|----------|----------|----------|-------|
| | | 金額 | 金額 | 金額 | 増減率 |
| 不納欠損額 | | 千円 | 千円 | 千円 | % |
| | | 698,480 | 835,353 | △136,873 | △16.4 |
| 内 訳 | 滞納処分の執行停止が3年継続したことによる消滅 | 86,233 | 129,206 | △42,973 | △33.3 |
| | 執行停止後時効完成 | 23,422 | 33,305 | △9,883 | △29.7 |
| | 滞納処分の執行を停止し直ちに納税義務を消滅(即時欠損) | 26,168 | 24,452 | 1,716 | 7.0 |
| | 市町において不納欠損処分とした個人県民税 | 562,657 | 648,390 | △85,733 | △13.2 |

- 1 県税の不納欠損額は6億9,848万円で、前年度8億3,535万3千円に比べ1億3,687万3千円、16.4%の減少となった。

不納欠損額を理由別にみると、滞納処分の執行停止が3年継続したことにより消滅したもの8,623万3千円、執行停止後時効完成によるもの2,342万2千円、滞納処分の執行を停止して直ちに納税義務を消滅させたもの2,616万8千円及び市町において不納欠損処分とした個人県民税に係るもの5億6,265万7千円であった。

県税関係収入未済額の内訳と前年度比較

| 区 分 | 平成30年度 | | 平成29年度 | | 比較増減 | |
|----------|--------------------------------|---------------------|--------------------------------|---------------------|----------------------------------|-----------------------|
| | 金 額 | 構成比 | 収入済額 | 構成比 | 収入済額 | 増減率 |
| 県 税 | 千円 5,682,370 (5,342,520) | % 99.0 (99.0) | 千円 6,741,986 (6,361,703) | % 99.1 (99.1) | 千円 △1,059,616 (△1,019,183) | % △15.7 (△16.0) |
| 個人県民税 | 4,788,980 (4,788,980) | 83.4 (88.7) | 5,773,237 (5,773,237) | 84.8 (89.9) | △984,257 (△984,257) | △17.0 (△17.0) |
| 法人県民税 | 39,537 (25,181) | 0.7 (0.5) | 43,359 (26,761) | 0.6 (0.4) | △3,822 (△1,580) | △8.8 (△5.9) |
| 県民税利子割 | 0 (0) | 0.0 (0.0) | 0 (0) | 0.0 (0.0) | 0 (0) | - (-) |
| 個人事業税 | 102,965 (66,313) | 1.8 (1.2) | 111,641 (73,101) | 1.6 (1.1) | △8,676 (△6,788) | △7.8 (△9.3) |
| 法人事業税 | 76,856 (61,057) | 1.3 (1.1) | 68,136 (50,495) | 1.0 (0.8) | 8,720 (10,562) | 12.8 (20.9) |
| 不動産取得税 | 235,305 (120,188) | 4.1 (2.2) | 212,508 (97,820) | 3.2 (1.6) | 22,797 (22,368) | 10.7 (22.9) |
| 県たばこ税 | 0 (0) | 0.0 (0.0) | 0 (0) | 0.0 (0.0) | 0 (0) | - (-) |
| ゴルフ場利用税 | 0 (0) | 0.0 (0.0) | 0 (0) | 0.0 (0.0) | 0 (0) | - (-) |
| 軽油引取税 | 84,574 (84,574) | 1.5 (1.6) | 85,294 (85,294) | 1.3 (1.3) | △720 (△720) | △0.8 (△0.8) |
| 自動車税 | 354,153 (196,227) | 6.2 (3.7) | 447,811 (254,995) | 6.6 (4.0) | △93,658 (△58,768) | △20.9 (△23.0) |
| 鉦区税 | 0 (0) | 0.0 (0.0) | 0 (0) | 0.0 (0.0) | 0 (0) | - (-) |
| 雑収入(加算金) | 59,468 (55,158) | 1.0 (1.0) | 64,190 (58,641) | 0.9 (0.9) | △4,722 (△3,483) | △7.4 (△5.9) |
| 合 計 | 5,741,838 (5,397,678) | 100.0 (100.0) | 6,806,176 (6,420,344) | 100.0 (100.0) | △1,064,338 (△1,022,666) | △15.6 (△15.9) |

(上段：収入未済額、下段括弧書き：実収入未済額)

※軽油引取税は、新税と旧税の合計額で記載している。

2 県税の収入未済額は56億8,237万円で、前年度の収入未済額67億4,198万6千円に比べ10億5,961万6千円、15.7%の減少となった。

税目別では、前年度と比べ増加した主なものは、不動産取得税で2,279万7千円の増、減少した主なものは、個人県民税で9億8,425万7千円の減である。

収入未済額56億8,237万円には、執行停止中のもの2億4,105万円9千円、徴収猶予中のもの9,865万8千円、納期限未到来のもの13万3千円を含んでおり、これらを差し引いた実収入未済額は、53億4,252万円であった。

第8款 使用料及び手数料

| 予算現額 | 調定額 | 収入済額 | 不納欠損額 | 収入未済額 | 予算現額と収入済額との比較 | 予算現額に対する収入率 | 調定額に対する収入率 |
|----------------|----------------|----------------|--------|------------|---------------|-------------|------------|
| 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | % | % |
| 16,560,598,000 | 16,578,436,338 | 16,558,108,090 | 68,906 | 20,259,342 | △2,489,910 | 99.9 | 99.9 |

1 不納欠損額及び収入未済額の内訳と前年度比較は、次のとおりである。

| 区 分 | | 平成30年度 金額 | 平成29年度 金額 | 比較増減 | |
|--------|---------------------|--------------|--------------|---------------|------------|
| | | | | 金額 | 増減率 |
| 不納欠損額 | | 円 68,906 | 円 437,243 | 円 △368,337 | % △84.2 |
| 内 訳 | 交通基盤使用料(港湾使用料等) | 55,406 | 302,843 | △247,437 | △81.7 |
| | 教育使用料(全日制高等学校授業料) | 0 | 134,400 | △134,400 | 皆減 |
| | 教育使用料(定時制高等学校授業料) | 13,500 | 0 | 13,500 | 皆増 |
| 収入未済額 | | 20,259,342 | 11,020,793 | 9,238,549 | 83.8 |
| 内 訳 | 文化観光使用料(空港使用料) | 340,800 | 0 | 340,800 | 皆増 |
| | 経済産業使用料(創業者育成施設使用料) | 216,600 | 216,600 | 0 | 0.0 |
| | 交通基盤使用料(道路占用料) | 1,832,758 | 1,638,436 | 194,322 | 11.9 |
| | 交通基盤使用料(河川占用料) | 14,809,928 | 6,035,328 | 8,774,600 | 145.4 |
| | 交通基盤使用料(港湾使用料) | 1,620,325 | 1,537,869 | 82,456 | 5.4 |
| | 交通基盤使用料(県営漁港使用料) | 400,000 | 1,117,200 | △717,200 | △64.2 |
| | 交通基盤使用料(港湾占用料等) | 194,900 | 17,300 | 177,600 | 1,026.6 |
| | 教育使用料(全日制高等学校授業料) | 128,823 | 156,054 | △27,231 | △17.4 |
| | 教育使用料(定時制高等学校授業料) | 629,400 | 265,550 | 363,850 | 137.0 |
| | 教育使用料(通信教育授業料) | 85,808 | 36,456 | 49,352 | 135.4 |

第10款 財産収入

| 予算現額 | 調定額 | 収入済額 | 不納欠損額 | 収入未済額 | 予算現額と収入済額との比較 | 予算現額に対する収入率 | 調定額に対する収入率 |
|---------------|---------------|---------------|-----------|------------|---------------|-------------|------------|
| 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | % | % |
| 2,655,476,000 | 2,713,179,689 | 2,691,130,419 | 1,082,416 | 20,966,854 | 35,654,419 | 101.3 | 99.2 |

1 不納欠損額及び収入未済額の内訳と前年度比較は、次のとおりである。

| 区 分 | 平成 30 年度 金 額 | 平成 29 年度 金 額 | 比較増減 | |
|---------------|-----------------|-----------------|--------------|------------|
| | | | 金 額 | 増減率 |
| 不 納 欠 損 額 | 円 1,082,416 | 円 300,131 | 円 782,285 | % 260.6 |
| 財産貸付収入(土地貸付料) | 1,082,416 | 300,131 | 782,285 | 260.6 |
| 収 入 未 済 額 | 20,966,854 | 22,034,120 | △1,067,266 | △4.8 |
| 財産貸付収入(土地貸付料) | 20,966,854 | 22,034,120 | △1,067,266 | △4.8 |

第 14 款 諸 収 入

| 予算現額 | 調定額 | 収入済額 | 不 納 欠 損 額 | 収 入 未 済 額 | 予算現額と 収入済額と の 比 較 | 予算現額 に対する 収入率 | 調定額こ 対する 収入率 |
|----------------|----------------|----------------|-------------------|----------------------|-------------------------|---------------------|--------------------|
| 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | % | % |
| 25,337,175,000 | 26,657,630,741 | 25,178,670,891 | 34,497,849 | 1,444,462,001 | △158,504,109 | 99.4 | 94.5 |

| 区 分 | 平成 30 年度 金 額 | 平成 29 年度 金 額 | 比較増減 | |
|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------|
| | | | 金 額 | 増減率 |
| 不 納 欠 損 額 | 円 34,497,849 | 円 24,174,478 | 円 10,323,371 | % 42.7 |
| 内 雑 入 | 27,645,145 | 20,991,167 | 6,653,978 | 31.7 |
| 内 延滞金、加算金及び過料等 | 6,852,704 | 3,183,311 | 3,669,393 | 115.3 |
| 収 入 未 済 額 | 1,444,462,001 | 1,423,657,455 | 20,804,546 | 1.5 |
| 内 雑 入 | 1,352,733,306 | 1,318,505,829 | 34,227,477 | 2.6 |
| 内 延滞金、加算金及び過料等 | 72,520,695 | 85,041,626 | △12,520,931 | △14.7 |
| 内 貸付金元利収入 | 19,208,000 | 20,110,000 | △902,000 | △4.5 |

1 不納欠損額 3,449 万 7,849 円の内訳は、雑入 2,764 万 5,145 円、延滞金、加算金及び過料等 685 万 2,704 円で、前年度の不納欠損額 2,417 万 4,478 円に比べ 1,032 万 3,371 円の増加となった。

2 収入未済額 14 億 4,446 万 2,001 円の内訳は、雑入 13 億 5,273 万 3,306 円、延滞金、加算金及び過料等 7,252 万 695 円、貸付金元利収入 1,920 万 8 千円で、前年度の収入未済額 14 億 2,365 万 7,455 円に比べ 2,080 万 4,546 円、1.5%の増加となった。これは、生活保護費返還金や地域産業立地事業費補助金等の補助金返還が新たに発生したことによる雑入 3,422 万 7,477 円の増加及び延滞金、加算金及び過料等 1,252 万 931 円、貸付金元利収入 90 万 2 千円の減少によるものである。

2 一般会計歳出

歳出決算額は、次の表のとおりである。

| 区 分 | 平成 30 年度 | | | | | |
|-----------|-------------------|-------------------|----------------|----------------|---------------------|--------------------|
| | 予算現額 | 支出済額 | 翌年度 繰越額 | 不用額 | 予算現額 に対する 執行率 | 支出済額 の款別 構成比 |
| | 円 | 円 | 円 | 円 | % | % |
| 1 議会費 | 1,962,795,000 | 1,894,240,928 | 0 | 68,554,072 | 96.5 | 0.2 |
| 2 知事直轄組織費 | 13,727,616,000 | 13,629,145,918 | 7,100,000 | 91,370,082 | 99.3 | 1.2 |
| 3 危機管理費 | 12,974,022,000 | 9,784,953,082 | 2,590,288,000 | 598,780,918 | 75.4 | 0.8 |
| 4 経営管理費 | 30,708,210,000 | 30,022,673,940 | 7,292,000 | 678,244,060 | 97.8 | 2.5 |
| 5 暮らし・環境費 | 8,873,879,000 | 8,508,879,131 | 183,433,000 | 181,566,869 | 95.9 | 0.7 |
| 6 文化・観光費 | 16,946,537,000 | 16,516,998,935 | 201,372,000 | 228,166,065 | 97.5 | 1.4 |
| 7 健康福祉費 | 227,635,111,000 | 223,899,851,091 | 586,133,000 | 3,149,126,909 | 98.4 | 19.0 |
| 8 経済産業費 | 87,864,911,000 | 66,365,929,071 | 18,862,711,000 | 2,636,270,929 | 75.5 | 5.6 |
| 9 交通基盤費 | 149,221,877,000 | 115,219,068,486 | 33,246,928,000 | 755,880,514 | 77.2 | 9.8 |
| 10 警察費 | 80,100,639,000 | 79,428,507,486 | 268,585,000 | 403,546,514 | 99.2 | 6.7 |
| 11 教育費 | 241,020,405,000 | 239,447,473,998 | 546,657,000 | 1,026,274,002 | 99.3 | 20.3 |
| 12 災害対策費 | 5,595,778,000 | 3,279,487,059 | 2,002,849,000 | 313,441,941 | 58.6 | 0.3 |
| 13 公債費 | 184,181,787,000 | 184,168,805,758 | 0 | 12,981,242 | 99.9 | 15.6 |
| 14 諸支出金 | 188,229,000,000 | 187,315,656,991 | 0 | 913,343,009 | 99.5 | 15.9 |
| 15 予備費 | 273,133,000 | 0 | 0 | 273,133,000 | 0.0 | 0.0 |
| 合 計 | 1,249,315,700,000 | 1,179,481,671,874 | 58,503,348,000 | 11,330,680,126 | 94.4 | 100.0 |

| 区 分 | 平成 30 年度 | | 平成 29 年度 | | 比較増減 | | 支出済額 増減率 |
|------------|---------------|-------|---------------|-------|-------------|------|-------------|
| | 支出済額 | 構成比 | 支出済額 | 構成比 | 支出済額 | 構成比 | |
| | 千円 | % | 千円 | % | 千円 | ポイント | % |
| 1 議 会 費 | 1,894,241 | 0.2 | 1,897,787 | 0.1 | △3,546 | 0.1 | △0.2 |
| 2 知事直轄組織費 | 13,629,146 | 1.2 | - | - | 13,629,146 | 1.2 | 皆増 |
| 3 危機管理費 | 9,784,953 | 0.8 | 6,330,786 | 0.5 | 3,454,167 | 0.3 | 54.6 |
| 4 経営管理費 | 30,022,674 | 2.5 | 58,921,898 | 4.8 | △28,899,224 | △2.3 | △49.0 |
| 5 暮らし・環境費 | 8,508,879 | 0.7 | 9,279,192 | 0.8 | △770,313 | △0.1 | △8.3 |
| 6 文化・観光費 | 16,516,999 | 1.4 | 14,983,041 | 1.2 | 1,533,958 | 0.2 | 10.2 |
| 7 健康福祉費 | 223,899,851 | 19.0 | 230,447,032 | 19.0 | △6,547,181 | 0.0 | △2.8 |
| 8 経済産業費 | 66,365,929 | 5.6 | 48,566,562 | 4.0 | 17,799,367 | 1.6 | 36.6 |
| 9 交通基盤費 | 115,219,069 | 9.8 | 129,682,711 | 10.7 | △14,463,642 | △0.9 | △11.2 |
| 10 警 察 費 | 79,428,507 | 6.7 | 77,371,506 | 6.4 | 2,057,001 | 0.3 | 2.7 |
| 11 教 育 費 | 239,447,474 | 20.3 | 241,257,224 | 19.9 | △1,809,750 | 0.4 | △0.8 |
| 12 災害対策費 | 3,279,487 | 0.3 | 1,252,092 | 0.1 | 2,027,395 | 0.2 | 161.9 |
| 13 公 債 費 | 184,168,806 | 15.6 | 184,928,338 | 15.2 | △759,532 | 0.4 | △0.4 |
| 14 諸 支 出 金 | 187,315,657 | 15.9 | 209,987,178 | 17.3 | △22,671,521 | △1.4 | △10.8 |
| 15 予 備 費 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0.0 |
| 合 計 | 1,179,481,672 | 100.0 | 1,214,905,347 | 100.0 | △35,423,675 | - | △2.9 |

| 区 分 | 平成 30 年度金額 | 平成 29 年度金額 | 比較増減 | |
|--------|------------|------------|------------|-------|
| | | | 金 額 | 増減率 |
| | 千円 | 千円 | 千円 | % |
| 翌年度繰越額 | 58,503,348 | 48,423,700 | 10,079,648 | 20.8 |
| 不 用 額 | 11,330,680 | 13,824,085 | △2,493,405 | △18.0 |

(1) 予算現額 1 兆 2,493 億 1,570 万円に対し、支出済額 1 兆 1,794 億 8,167 万 2 千円で、執行率は 94.4%であった。

また、前年度の支出済額 1 兆 2,149 億 534 万 7 千円に比べ 354 億 2,367 万 5 千円、2.9%の減少となった。

(2) 翌年度繰越額 585 億 334 万 8 千円の主な内訳は、交通基盤費 332 億 4,692 万 8 千円、経済産業費 188 億 6,271 万 1 千円、危機管理費 25 億 9,028 万 8 千円等であり、繰越の理由は、計画・設計に関する諸条件の調整及び国の補正予算に係る事業の着手が年度末になったことなどによるものである。

また、前年度の繰越額 484 億 2,370 万円と比べ 100 億 7,964 万 8 千円、20.8%の増加となった。

- (3) 不用額 113 億 3,068 万円は、前年度 138 億 2,408 万 5 千円に比べ 24 億 9,340 万 5 千円、18.0%の減少となった。

翌年度繰越額及び不用額の状況は、次のとおりである。

第1款 議 会 費

| 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌年度繰越額 | 不 用 額 | 執行率 |
|--------------------|--------------------|--------|-----------------|-----------|
| 円 1,962,795,000 | 円 1,894,240,928 | 円 0 | 円 68,554,072 | % 96.5 |

- 1 不用額 6,855 万 4,072 円は、政務活動費の確定に伴う執行残等である。

第2款 知事直轄組織費

| 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌年度繰越額 | 不 用 額 | 執行率 |
|---------------------|---------------------|----------------|-----------------|-----------|
| 円 13,727,616,000 | 円 13,629,145,918 | 円 7,100,000 | 円 91,370,082 | % 99.3 |

- 1 翌年度繰越額 710 万円は地域外交費であり、繰越の理由は、国の補正予算に係る事業の着手が年度末になったことによるものである。
- 2 不用額 9,137 万 82 円は、事務費の節約や事業費の確定に伴う執行残等であり、主な内訳は次のとおりである。

| | | | |
|-----------|-----------------|-------------------|-----------------|
| 諸 費 | 2,743 万 2,227 円 | 地 域 外 交 費 | 2,670 万 3,376 円 |
| 政 策 推 進 費 | 2,146 万 9,887 円 | 知 事 直 轄 組 織 総 務 費 | 1,023 万 5,574 円 |

第3款 危 機 管 理 費

| 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌年度繰越額 | 不 用 額 | 執行率 |
|---------------------|--------------------|--------------------|------------------|-----------|
| 円 12,974,022,000 | 円 9,784,953,082 | 円 2,590,288,000 | 円 598,780,918 | % 75.4 |

- 1 翌年度繰越額 25 億 9,028 万 8,000 円は危機管理費であり、繰越の主な理由は、国の補正予算に係る事業の着手が年度末になったこと等によるものである。
- 2 不用額 5 億 9,878 万 918 円は、危機管理費などであり、補助金の事業費確定に伴う執行残等である。

第4款 経 営 管 理 費

| 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌年度繰越額 | 不 用 額 | 執行率 |
|---------------------|---------------------|----------------|------------------|-----------|
| 円 30,708,210,000 | 円 30,022,673,940 | 円 7,292,000 | 円 678,244,060 | % 97.8 |

- 1 翌年度繰越額 729 万 2,000 円は管財費等であり、繰越の理由は計画・設計に関する諸条件の調整に日時を要したこと等によるものである。
- 2 不用額 6 億 7,824 万 4,060 円は、一般総務費における時間外勤務手当及び退職手当の実績による執行残等であり、主な内訳は、次のとおりである。

| | | | |
|----------|---------------------|---------|-----------------|
| 一般総務費 | 3 億 8,107 万 4,563 円 | 管財費 | 8,739 万 9,514 円 |
| 県議会議員選挙費 | 4,742 万 9,032 円 | 統計調査費 | 3,623 万 5,388 円 |
| 賦課徴収費 | 2,946 万 7,322 円 | ICT 政策費 | 2,223 万 3,990 円 |

第5款 くらし・環境費

| 予算現額 | 支出済額 | 翌年度繰越額 | 不用額 | 執行率 |
|---------------|---------------|-------------|-------------|------|
| 円 | 円 | 円 | 円 | % |
| 8,873,879,000 | 8,508,879,131 | 183,433,000 | 181,566,869 | 95.9 |

- 1 翌年度繰越額 1 億 8,343 万 3,000 円の主な内訳は次のとおりであり、繰越の理由は、計画・設計に関する諸条件の調整に日時を要したこと等によるものである。

| | | | |
|------------|------------|---------|-----------------|
| 環境衛生科学研究所費 | 1 億 500 万円 | 建築安全推進費 | 4,202 万 3,000 円 |
|------------|------------|---------|-----------------|

- 2 不用額 1 億 8,156 万 6,869 円は、事務費の節約や事業費の確定に伴う執行残等であり、主な内訳は次のとおりである。

| | | | |
|-------|-----------------|-----------|-----------------|
| 環境政策費 | 7,879 万 708 円 | 建築安全推進費 | 5,845 万 3,822 円 |
| 県民生活費 | 2,264 万 9,383 円 | くらし・環境企画費 | 1,031 万 47 円 |

第6款 文化・観光費

| 予算現額 | 支出済額 | 翌年度繰越額 | 不用額 | 執行率 |
|----------------|----------------|-------------|-------------|------|
| 円 | 円 | 円 | 円 | % |
| 16,946,537,000 | 16,516,998,935 | 201,372,000 | 228,166,065 | 97.5 |

- 1 翌年度繰越額 2 億 137 万 2,000 円の主な内訳は次のとおりであり、繰越の理由は、計画・設計に関する諸条件の調整に日時を要したこと等によるものである。

| | | | |
|-----|-------------------|-------|-----------------|
| 観光費 | 1 億 641 万 6,000 円 | 空港政策費 | 6,476 万 9,000 円 |
|-----|-------------------|-------|-----------------|

- 2 不用額 2 億 2,816 万 6,065 円は、事業費の確定に伴う執行残等であり、主な内訳は次のとおりである。

| | | | |
|----------|-----------------|---------|-----------------|
| スポーツ費 | 5,640 万 4,632 円 | 空港政策費 | 5,027 万 8,559 円 |
| 空港利用促進費 | 3,481 万 548 円 | 観光費 | 2,629 万 4,599 円 |
| 文化・観光総務費 | 1,718 万 2,543 円 | 世界遺産推進費 | 1,294 万 328 円 |

第7款 健康福祉費

| 予算現額 | 支出済額 | 翌年度繰越額 | 不用額 | 執行率 |
|-----------------|-----------------|-------------|---------------|------|
| 円 | 円 | 円 | 円 | % |
| 227,635,111,000 | 223,899,851,091 | 586,133,000 | 3,149,126,909 | 98.4 |

- 1 翌年度繰越額 5 億 8,613 万 3,000 円の主な内訳は次のとおりであり、繰越の理由は、計画・設計に関する諸条件の調整に日時を要したこと及び国の補正予算に係る事業の着手が年度末になったことによるものである。

| | | | |
|--------|---------------------|--------|---------------------|
| 医務福祉費 | 1 億 9,021 万 6,000 円 | 障害者支援費 | 1 億 6,009 万 2,000 円 |
| こども未来費 | 1 億 5,017 万 5,000 円 | 県立病院費 | 8,500 万円 |

- 2 不用額 31 億 4,912 万 6,909 円は、事業費の確定に伴う執行残等であり、主な内訳は次のとおりである。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|---------------------|
| こども未来費 | 13 億 7,030 万 2,867 円 | 医務福祉費 | 4 億 3,315 万 8,218 円 |
| 障害者支援費 | 3 億 5,672 万 3,352 円 | 県立病院費 | 3 億 4,162 万 6,319 円 |
| 国民健康保険費 | 2 億 3,932 万 4,235 円 | 健康福祉総務費 | 1 億 473 万 5,084 円 |

第 8 款 経 済 産 業 費

| 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌年度繰越額 | 不 用 額 | 執行率 |
|----------------|----------------|----------------|---------------|------|
| 円 | 円 | 円 | 円 | % |
| 87,864,911,000 | 66,365,929,071 | 18,862,711,000 | 2,636,270,929 | 75.5 |

- 1 翌年度繰越額 188 億 6,271 万 1,000 円の主な内訳は次のとおりであり、繰越の理由は、用地補償交渉及び計画・設計に関する諸条件の調整に日時を要したこと並びに国の補正予算に係る事業の着手が年度末になったこと等によるものである。

| | | | |
|--------|----------------------|-------|----------------------|
| 畜産業費 | 68 億 7,480 万 3,000 円 | 農地費 | 41 億 7,437 万 2,000 円 |
| 森林・林業費 | 38 億 3,367 万 4,000 円 | 農業費 | 33 億 8,649 万 8,000 円 |
| 水産業費 | 2 億 8,137 万 2,000 円 | 研究開発費 | 2 億 8,067 万 8,000 円 |

- 2 不用額 26 億 3,627 万 929 円は、事業費の確定に伴う執行残等であり、主な内訳は次のとおりである。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|---------------------|
| 農業費 | 10 億 7,375 万 8,426 円 | 商工業費 | 4 億 7,048 万 8,984 円 |
| 水産業費 | 3 億 8,222 万 7,768 円 | 研究開発費 | 1 億 5,193 万 2,577 円 |
| 森林・林業費 | 1 億 4,073 万 6,228 円 | 経済産業総務費 | 1 億 1,393 万 3,596 円 |
| 職業能力開発費 | 1 億 1,005 万 934 円 | 産業革新費 | 1 億 2 万 6,680 円 |

第 9 款 交 通 基 盤 費

| 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌年度繰越額 | 不 用 額 | 執行率 |
|-----------------|-----------------|----------------|-------------|------|
| 円 | 円 | 円 | 円 | % |
| 149,221,877,000 | 115,219,068,486 | 33,246,928,000 | 755,880,514 | 77.2 |

- 1 翌年度繰越額 332 億 4,692 万 8,000 円の主な内訳は次のとおりであり、繰越の理由は、用地補償交渉及び計画・設計に関する諸条件の調整に日時を要したこと並びに国の補正予算に係る事業の着手が年度末になったこと等によるものである。

| | | | |
|-------------|-----------------------|-------|----------------------|
| 道路橋りょう新設改良費 | 123 億 2,928 万 1,000 円 | 河川改良費 | 88 億 6,601 万 5,000 円 |
| 砂防費 | 34 億 8,625 万 7,000 円 | 海岸費 | 23 億 6,653 万 6,000 円 |

港湾建設費 20億5,499万6,000円 市街地整備費 17億6,717万2,000円
 漁港整備費 14億5,200万円 道路橋りょう維持管理費 4億9,719万6,000円

- 2 不用額7億5,588万514円は、事業費の確定に伴う執行残等であり、主な内訳は次のとおりである。

交通基盤総務費 3億7,661万4,763円 河川改良費 1億7,551万8,000円
 砂防費 7,514万1,000円 国直轄事業費負担金(道路) 3,333万3,660円
 漁港整備費 2,818万7,586円 道路橋りょう新設改良費 2,640万2,381円

第10款 警察費

| 予算現額 | 支出済額 | 翌年度繰越額 | 不用額 | 執行率 |
|----------------|----------------|-------------|-------------|------|
| 円 | 円 | 円 | 円 | % |
| 80,100,639,000 | 79,428,507,486 | 268,585,000 | 403,546,514 | 99.2 |

- 1 翌年度繰越額2億6,858万5,000円の主な内訳は次のとおりであり、繰越の理由は、計画・設計に関する諸条件の調整に日時を要したことによるものである。

警察本部費 1億7,717万8,000円 交通安全対策費 5,800万円

- 2 不用額4億354万6,514円は、職員手当等が見込みを下回ったことなどによる執行残などであり、主な内訳は次のとおりである。

警察本部費 2億7,637万1,276円 運転免許費 5,763万1,767円
 警察活動費 4,164万3,575円 警察施設費 2,308万7,093円

第11款 教育費

| 予算現額 | 支出済額 | 翌年度繰越額 | 不用額 | 執行率 |
|-----------------|-----------------|-------------|---------------|------|
| 円 | 円 | 円 | 円 | % |
| 241,020,405,000 | 239,447,473,998 | 546,657,000 | 1,026,274,002 | 99.3 |

- 1 翌年度繰越額5億4,665万7,000円の主な内訳は次のとおりであり、繰越の理由は、国の補正予算に係る事業の着手が年度末になったこと等によるものである。

教育管理費 4億1,402万2,000円 教育総務費 8,153万2,000円

- 2 不用額10億2,627万4,002円は、学校教職員等の職員手当等の執行残及び事業費確定に伴う執行残等であり、主な内訳は、次のとおりである。

教職員費(小学校) 1億3,844万3,069円 高等学校総務費 1億3,822万6,979円
 教育総務費 1億1,712万9,150円 特別支援学校費 1億1,613万2,342円
 教育管理費 1億516万352円 教職員費(中学校) 1億302万7,170円
 私学振興費 8,049万878円 高等学校管理費 6,208万9,105円

第12款 災害対策費

| 予算現額 | 支出済額 | 翌年度繰越額 | 不用額 | 執行率 |
|---------------|---------------|---------------|-------------|------|
| 円 | 円 | 円 | 円 | % |
| 5,595,778,000 | 3,279,487,059 | 2,002,849,000 | 313,441,941 | 58.6 |

1 翌年度繰越額 20 億 284 万 9,000 円の主な内訳は次のとおりであり、繰越の理由は、用地補償交渉及び計画・設計に関する諸条件の調整に日時を要したこと並びに国の補正予算に係る事業の着手が年度末になったことによるものである。

現年災害土木復旧費 6 億 9,470 万円 現年災害農林水産施設復旧費 5 億 5,393 万 5,000 円
 現年災害教育施設復旧費 3 億 7,114 万 8,000 円 過年災害土木復旧費 2 億 7,806 万 6,000 円

2 不用額 3 億 1,344 万 1,941 円は、事業費の確定による執行残等であり、主な内訳は次のとおりである。

現年災害土木復旧費 1 億 1,060 万 5,988 円 現年災害農林水産施設復旧費 1 億 778 万 4,560 円
 現年災害教育施設復旧費 5,665 万 3,480 円 災害対策本部費 1,939 万 2,129 円

第13款 公債費

| 予算現額 | 支出済額 | 翌年度繰越額 | 不用額 | 執行率 |
|-----------------|-----------------|--------|------------|------|
| 円 | 円 | 円 | 円 | % |
| 184,181,787,000 | 184,168,805,758 | 0 | 12,981,242 | 99.9 |

1 不用額 1,298 万 1,242 円の主な内訳は、次のとおりである。

利 子 891 万 8,499 円 公債諸費 405 万 7,212 円

第14款 諸支出金

| 予算現額 | 支出済額 | 翌年度繰越額 | 不用額 | 執行率 |
|-----------------|-----------------|--------|-------------|------|
| 円 | 円 | 円 | 円 | % |
| 188,229,000,000 | 187,315,656,991 | 0 | 913,343,009 | 99.5 |

1 不用額 9 億 1,334 万 3,009 円の主な内訳は、次のとおりである。

配当割交付金 1 億 9,409 万 2,000 円 県税還付金 1 億 7,567 万 2,581 円
 軽油引取税交付金 1 億 2,824 万 4,200 円 株式等譲渡所得割交付金 1 億 2,138 万 9,000 円
 自動車取得税交付金 9,295 万 5,311 円 地方消費税精算金 8,200 万 5,192 円

第15款 予備費

| 予算計上額 | 予備費補充額 | 予算現額 | 不用額 |
|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 円 | 円 | 円 | 円 |
| 300,000,000 | △26,867,000 | 273,133,000 | 273,133,000 |

3 特別会計歳入歳出

静岡県公債管理特別会計ほか 11 会計の決算額は、次の表のとおりである。

| 歳 入 | | | | | | | | |
|--------------------------------|-----------------|-----------------|-----------------|--------------|---------------|---------------------------------|------------------------|------------------------|
| 会 計 別 | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 不 納 欠 損 額 | 収 入 未 済 額 | 予 算 現 額 と 収 入 済 額 と の 比 較 | 予 算 に 対 する 収 入 率 | 調 定 に 対 する 収 入 率 |
| | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | % | % |
| 公 債 管 理 | 445,726,471,000 | 445,722,478,820 | 445,722,478,820 | 0 | 0 | △3,992,180 | 99.9 | 100.0 |
| 自 動 車 税 等 証 紙 徴 収 事 務 | 5,293,000,000 | 4,979,525,400 | 4,979,525,400 | 0 | 0 | △313,474,600 | 94.1 | 100.0 |
| 県 営 住 宅 事 業 | 11,121,948,000 | 10,885,442,995 | 10,682,016,208 | 13,098,468 | 190,328,319 | △439,931,792 | 96.0 | 98.1 |
| 母 子 父 子 寡 婦 福 祉 資 金 | 660,000,000 | 1,281,086,421 | 652,180,901 | 10,090 | 628,895,430 | △7,819,099 | 98.8 | 50.9 |
| 心 身 障 害 者 扶 養 共 済 業 事 務 | 660,506,000 | 660,491,663 | 660,491,663 | 0 | 0 | △14,337 | 99.9 | 100.0 |
| 国 民 健 康 保 險 事 業 | 330,722,083,000 | 333,075,107,394 | 333,075,107,394 | 0 | 0 | 2,353,024,394 | 100.7 | 100.0 |
| 中 小 企 業 高 度 化 資 金 貸 付 事 業 等 | 5,175,061,000 | 7,439,557,760 | 5,533,995,151 | 12,454,454 | 1,893,108,155 | 358,934,151 | 106.9 | 74.4 |
| 林 業 改 善 資 金 | 292,013,000 | 274,043,268 | 267,008,573 | 0 | 7,034,695 | △25,004,427 | 91.4 | 97.4 |
| 沿 岸 漁 業 改 善 資 金 | 249,065,000 | 248,846,586 | 248,846,586 | 0 | 0 | △218,414 | 99.9 | 100.0 |
| 清 水 港 等 港 湾 整 備 事 業 | 6,648,024,000 | 6,015,699,404 | 6,009,529,099 | 26,560 | 6,143,745 | △638,494,901 | 90.4 | 99.9 |
| 流 域 下 水 道 事 務 | 4,766,435,000 | 4,668,939,442 | 4,668,939,442 | 0 | 0 | △97,495,558 | 98.0 | 100.0 |
| 物 品 調 達 等 事 務 | 1,720,430,000 | 1,398,187,718 | 1,398,187,718 | 0 | 0 | △322,242,282 | 81.3 | 100.0 |
| 合 計 | 813,035,036,000 | 816,649,406,871 | 813,898,306,955 | 25,589,572 | 2,725,510,344 | 863,270,955 | 100.1 | 99.7 |

| 会 計 別 | 平成 30 年度 収入済額 | 平成 29 年度 収入済額 | 比較増減 | |
|--------------------------------|------------------|------------------|-------------|-------|
| | | | 収入済額 | 増減率 |
| | 千円 | 千円 | 千円 | % |
| 公 債 管 理 | 445,722,479 | 423,260,759 | 22,461,720 | 5.3 |
| 自 動 車 税 等 証 紙 徴 収 務 事 | 4,979,525 | 4,701,279 | 278,246 | 5.9 |
| 県 営 住 宅 業 事 | 10,682,016 | 11,840,129 | △1,158,113 | △9.8 |
| 母 子 父 子 寡 婦 福 祉 資 金 | 652,181 | 690,031 | △37,850 | △5.5 |
| 心 身 障 害 者 扶 養 共 済 業 事 | 660,492 | 657,847 | 2,645 | 0.4 |
| 国 民 健 康 保 險 事 業 | 333,075,107 | - | 333,075,107 | 皆増 |
| 中 小 企 業 高 度 化 資 金 貸 付 事 業 等 | 5,533,995 | 12,096,167 | △6,562,172 | △54.3 |
| 林 業 改 善 資 金 | 267,009 | 280,055 | △13,046 | △4.7 |
| 沿 岸 漁 業 金 改 善 資 金 | 248,847 | 241,351 | 7,496 | 3.1 |
| 清 水 港 等 港 湾 整 備 事 業 | 6,009,529 | 10,099,542 | △4,090,013 | △40.5 |
| 流 域 下 水 道 業 事 | 4,668,939 | 5,729,540 | △1,060,601 | △18.5 |
| 物 品 調 達 等 事 務 | 1,398,188 | 1,659,652 | △261,464 | △15.8 |
| 合 計 | 813,898,307 | 471,256,352 | 342,641,955 | 72.7 |

収入未済額

| 会計別 | 平成 30 年度 収入未済額 | 平成 29 年度 収入未済額 | 比較増減 | |
|----------------|-------------------|-------------------|---------|-------|
| | | | 収入未済額 | 増減率 |
| | 千円 | 千円 | 千円 | % |
| 県営住宅事業 | 190,328 | 203,521 | △13,193 | △6.5 |
| 母子父子寡婦福祉資金 | 628,895 | 591,756 | 37,139 | 6.3 |
| 中小企業高度化資金貸付事業等 | 1,893,108 | 1,945,959 | △52,851 | △2.7 |
| 林業改善資金 | 7,035 | 7,047 | △12 | △0.2 |
| 清水港等港湾整備事業 | 6,144 | 8,023 | △1,879 | △23.4 |
| 合計 | 2,725,510 | 2,756,306 | △30,796 | △1.1 |

(1) 特別会計の歳入決算合計額は、予算現額 8,130 億 3,503 万 6 千円に対し、調定額 8,166 億 4,940 万 7 千円、収入済額 8,138 億 9,830 万 7 千円、収入未済額 27 億 2,551 万円で、調定額に対する収入率は 99.7%であった。

収入済額は、前年度の収入済額 4,712 億 5,635 万 2 千円に比べ 3,426 億 4,195 万円 5 千円、72.7%の増加となった。平成 30 年度に新設された国民健康保険事業特別会計 3,330 億 7,510 万 7 千円が皆増となったほか、前年度に比べ増加した主なものは、公債管理特別会計 224 億 6,172 万円等であり、減少した主なものは、中小企業高度化資金貸付事業等特別会計 65 億 6,217 万 2 千円、清水港等港湾整備事業特別会計 40 億 9,001 万 3 千円、県営住宅事業特別会計 11 億 5,811 万 3 千円、流域下水道事業特別会計 10 億 6,060 万 1 千円等である。

(2) 収入未済額 27 億 2,551 万円は、前年度の収入未済額 27 億 5,630 万 6 千円に比べ 3,079 万 6 千円の減少となった。減少した主なものは、中小企業高度化資金貸付事業等特別会計 5,285 万 1 千円、県営住宅事業特別会計 1,319 万 3 千円等であり、増加したものは、母子父子寡婦福祉資金特別会計 3,713 万 9 千円である。

歳 出

| 会 計 別 | 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌年度繰越額 | 不 用 額 | 予算に 対する 執行率 |
|----------------|-----------------|-----------------|---------------|---------------|-------------------|
| | 円 | 円 | 円 | 円 | % |
| 公 債 管 理 | 445,726,471,000 | 445,722,478,820 | 0 | 3,992,180 | 99.9 |
| 自動車税等証紙徴収事務 | 5,293,000,000 | 4,979,525,400 | 0 | 313,474,600 | 94.1 |
| 県 営 住 宅 事 業 | 11,121,948,000 | 10,446,998,858 | 532,899,000 | 142,050,142 | 93.9 |
| 母子父子寡婦福祉資金 | 660,000,000 | 554,067,046 | 0 | 105,932,954 | 83.9 |
| 心身障害者扶養共済事業 | 660,506,000 | 659,767,604 | 0 | 738,396 | 99.9 |
| 国民健康保険事業 | 330,722,083,000 | 325,887,771,396 | 0 | 4,834,311,604 | 98.5 |
| 中小企業高度化資金貸付事業等 | 5,175,061,000 | 5,175,056,113 | 0 | 4,887 | 99.9 |
| 林 業 改 善 資 金 | 292,013,000 | 23,097,454 | 0 | 268,915,546 | 7.9 |
| 沿岸漁業改善資金 | 249,065,000 | 66,538,187 | 0 | 182,526,813 | 26.7 |
| 清水港等港湾整備事業 | 6,648,024,000 | 5,702,123,148 | 922,202,000 | 23,698,852 | 85.8 |
| 流域下水道事業 | 4,766,435,000 | 4,332,127,300 | 115,000,000 | 319,307,700 | 90.9 |
| 物品調達事務等 | 1,720,430,000 | 1,398,187,718 | 0 | 322,242,282 | 81.3 |
| 合 計 | 813,035,036,000 | 804,947,739,044 | 1,570,101,000 | 6,517,195,956 | 99.0 |

| 会 計 別 | 平成 30 年度 支出済額 | 平成 29 年度 支出済額 | 比較増減 | |
|----------------|-------------------|-------------------|------------------|----------|
| | | | 支出済額 | 増減率 |
| 公 債 管 理 | 千円 445,722,479 | 千円 423,260,759 | 千円 22,461,720 | % 5.3 |
| 自動車税等証紙徴収事務 | 4,979,525 | 4,701,279 | 278,246 | 5.9 |
| 県 営 住 宅 事 業 | 10,446,999 | 11,655,014 | △1,208,015 | △10.4 |
| 母子父子寡婦福祉資金 | 554,067 | 615,233 | △61,166 | △9.9 |
| 心身障害者扶養共済事業 | 659,768 | 657,743 | 2,025 | 0.3 |
| 国民健康保険事業 | 325,887,771 | - | 325,887,771 | 皆増 |
| 中小企業高度化資金貸付事業等 | 5,175,056 | 9,829,028 | △4,653,972 | △47.3 |
| 林 業 改 善 資 金 | 23,098 | 17,996 | 5,102 | 28.4 |
| 沿岸漁業改善資金 | 66,538 | 18,964 | 47,574 | 250.9 |
| 清水港等港湾整備事業 | 5,702,123 | 9,967,706 | △4,265,583 | △42.8 |
| 流域下水道事業 | 4,332,127 | 5,628,343 | △1,296,216 | △23.0 |
| 物品調達事務等 | 1,398,188 | 1,659,652 | △261,464 | △15.8 |
| 合 計 | 804,947,739 | 468,011,717 | 336,936,022 | 72.0 |

翌年度繰越額

| 会 計 別 | 平成 30 年度 翌年度繰越額 | 平成 29 年度 翌年度繰越額 | 比較増減 | |
|-------------|--------------------|--------------------|---------------|------------|
| | | | 翌年度繰越額 | 増減率 |
| 県 営 住 宅 事 業 | 千円 532,899 | 千円 614,948 | 千円 △82,049 | % △13.3 |
| 清水港等港湾整備事業 | 922,202 | 580,000 | 342,202 | 59.0 |
| 流域下水道事業 | 115,000 | 451,840 | △336,840 | △74.5 |
| 合 計 | 1,570,101 | 1,646,788 | △76,687 | △4.7 |

不用額

| 会 計 別 | 平成 30 年度 不用額 | 平成 29 年度 不用額 | 比較増減 | |
|----------------|-----------------|-----------------|-----------|-------|
| | | | 不用額 | 増減率 |
| | 千円 | 千円 | 千円 | % |
| 公 債 管 理 | 3,992 | 7,125 | △3,133 | △44.0 |
| 自動車税等証紙徴収事務 | 313,475 | 317,721 | △4,246 | △1.3 |
| 県 営 住 宅 事 業 | 142,050 | 159,038 | △16,988 | △10.7 |
| 母子父子寡婦福祉資金 | 105,933 | 50,767 | 55,166 | 108.7 |
| 心身障害者扶養共済事業 | 738 | 2,032 | △1,294 | △63.7 |
| 国民健康保険事業 | 4,834,312 | - | 4,834,312 | 皆増 |
| 中小企業高度化資金貸付事業等 | 5 | 7,126 | △7,121 | △99.9 |
| 林 業 改 善 資 金 | 268,915 | 287,066 | △18,151 | △6.3 |
| 沿岸漁業改善資金 | 182,527 | 222,574 | △40,047 | △18.0 |
| 清水港等港湾整備事業 | 23,699 | 110,294 | △86,595 | △78.5 |
| 流域下水道事業 | 319,308 | 82,513 | 236,795 | 287.0 |
| 物品調達事務等 | 322,242 | 376,008 | △53,766 | △14.3 |
| 合 計 | 6,517,196 | 1,622,264 | 4,894,932 | 301.7 |

(1) 特別会計の歳出決算合計額は、予算現額 8,130 億 3,503 万 6 千円に対し、支出済額 8,049 億 4,773 万 9 千円で、執行率は 99.0%であった。

支出済額は、前年度の支出済額 4,680 億 1,171 万 7 千円に比べ 3,369 億 3,602 万 2 千円の増加となった。平成 30 年度に新設された国民健康保険事業特別会計 3,258 億 8,777 万 1 千円が皆増となったほか、前年度に比べ増加した主なものは、公債管理特別会計 224 億 6,172 万円等であり、減少した主なものは、中小企業高度化資金貸付事業等特別会計 46 億 5,397 万 2 千円、清水港等港湾整備事業特別会計 42 億 6,558 万 3 千円、流域下水道事業特別会計 12 億 9,621 万 6 千円、県営住宅事業特別会計 12 億 801 万 5 千円等である。

(2) 翌年度繰越額 15 億 7,010 万 1 千円は、前年度の繰越額 16 億 4,678 万 8 千円に比べ 7,668 万 7 千円、4.7%の減少となった。

(3) 不用額 65 億 1,719 万 6 千円は、前年度の不用額 16 億 2,226 万 4 千円に比べ 48 億 9,493 万 2 千円、301.7%の増加となった。

不納欠損額、収入未済額、翌年度繰越額及び不用額の状況は、次のとおりである。

静岡県公債管理特別会計

歳 入

| 予算現額 | 調定額 | 収入済額 | 不納欠損額 | 収入未済額 | 予算現額と収入済額との比較 | 予算現額に対する収入率 | 調定額に対する収入率 |
|-----------------|-----------------|-----------------|-------|-------|---------------|-------------|------------|
| 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | % | % |
| 445,726,471,000 | 445,722,478,820 | 445,722,478,820 | 0 | 0 | △3,992,180 | 99.9 | 100.0 |

歳 出

| 予算現額 | 支出済額 | 翌年度繰越額 | 不用額 | 執行率 |
|-----------------|-----------------|--------|-----------|------|
| 円 | 円 | 円 | 円 | % |
| 445,726,471,000 | 445,722,478,820 | 0 | 3,992,180 | 99.9 |

- 1 歳入歳出差引額は、0円である。
- 2 不用額 399万2,180円は、公債費利子等における執行残である。

静岡県県営住宅事業特別会計

歳 入

| 予算現額 | 調定額 | 収入済額 | 不納欠損額 | 収入未済額 | 予算現額と収入済額との比較 | 予算現額に対する収入率 | 調定額に対する収入率 |
|----------------|----------------|----------------|------------|-------------|---------------|-------------|------------|
| 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | % | % |
| 11,121,948,000 | 10,885,442,995 | 10,682,016,208 | 13,098,468 | 190,328,319 | △439,931,792 | 96.0 | 98.1 |

歳 出

| 予算現額 | 支出済額 | 翌年度繰越額 | 不用額 | 執行率 |
|----------------|----------------|-------------|-------------|------|
| 円 | 円 | 円 | 円 | % |
| 11,121,948,000 | 10,446,998,858 | 532,899,000 | 142,050,142 | 93.9 |

- 1 歳入歳出差引額は、2億3,501万7,350円である。
- 2 不納欠損額 1,309万8,468円は、県営住宅の使用料である。
- 3 収入未済額 1億9,032万8,319円の内訳は、次のとおりであり、前年度の収入未済額 2億352万1,106円に比べ 1,319万2,787円の減少となった。

使 用 料 1億8,902万6,319円 雑 入 130万2,000円

- 4 翌年度繰越額 5億3,289万9,000円は、県営住宅整備費であり、繰越の理由は、計画・設計に関する諸条件の調整に日時を要したことによるものである。
- 5 不用額 1億4,205万142円は、県営住宅整備費等における執行残である。

静岡県母子父子寡婦福祉資金特別会計

歳 入

| 予算現額 | 調定額 | 収入済額 | 不納欠損額 | 収入未済額 | 予算現額と収入済額との比較 | 予算現額に対する収入率 | 調定額に対する収入率 |
|------------------|--------------------|------------------|-------------|------------------|-----------------|-------------|------------|
| 円 660,000,000 | 円 1,281,086,421 | 円 652,180,901 | 円 10,090 | 円 628,895,430 | 円 △7,819,099 | % 98.8 | % 50.9 |

歳 出

| 予算現額 | 支出済額 | 翌年度繰越額 | 不用額 | 執行率 |
|------------------|------------------|--------|------------------|-----------|
| 円 660,000,000 | 円 554,067,046 | 円 0 | 円 105,932,954 | % 83.9 |

- 1 歳入歳出差引額は、9,811万3,855円である。
- 2 不納欠損額1万90円は、母子父子寡婦福祉資金貸付金償還金である。
- 3 収入未済額6億2,889万5,430円の内訳は次のとおりであり、前年度の収入未済額5億9,175万5,638円に比べ3,713万9,792円の増加となった。

貸付金元利収入 4億5,721万2,397円 雑 入 1億7,168万3,033円

- 4 不用額1億593万2,954円は、貸付需要の見込み減に伴う母子父子寡婦福祉資金貸付金等における執行残である。

静岡県国民健康保険事業特別会計

歳 入

| 予算現額 | 調定額 | 収入済額 | 不納欠損額 | 収入未済額 | 予算現額と収入済額との比較 | 予算現額に対する収入率 | 調定額に対する収入率 |
|----------------------|----------------------|----------------------|--------|--------|--------------------|-------------|------------|
| 円 330,722,083,000 | 円 333,075,107,394 | 円 333,075,107,394 | 円 0 | 円 0 | 円 2,353,024,394 | % 100.7 | % 100.0 |

歳 出

| 予算現額 | 支出済額 | 翌年度繰越額 | 不用額 | 執行率 |
|----------------------|----------------------|--------|--------------------|-----------|
| 円 330,722,083,000 | 円 325,887,771,396 | 円 0 | 円 4,834,311,604 | % 98.5 |

- 1 歳入歳出差引額は、71億8,733万5,998円である。
- 2 不用額48億3,431万1,604円は、保険給付費等交付金等における執行残である。

静岡県中小企業高度化資金貸付事業等特別会計

歳 入

| 予算現額 | 調定額 | 収入済額 | 不納欠損額 | 収入未済額 | 予算現額と収入済額との比較 | 予算現額に対する収入率 | 調定額に対する収入率 |
|--------------------|--------------------|--------------------|-----------------|--------------------|------------------|-------------|------------|
| 円 5,175,061,000 | 円 7,439,557,760 | 円 5,533,995,151 | 円 12,454,454 | 円 1,893,108,155 | 円 358,934,151 | % 106.9 | % 74.4 |

歳 出

| 予算現額 | 支出済額 | 翌年度繰越額 | 不用額 | 執行率 |
|--------------------|--------------------|--------|------------|-----------|
| 円 5,175,061,000 | 円 5,175,056,113 | 円 0 | 円 4,887 | % 99.9 |

- 1 歳入歳出差引額は、3億5,893万9,038円である。
- 2 不納欠損額1,245万4,454円は、貸付金元利収入である。
- 3 収入未済額18億9,310万8,155円は、貸付金元利収入であり、前年度の収入未済額19億4,595万9,476円に比べ5,285万1,321円の減少となった。
- 4 不用額4,887円は、高度化資金貸付事務費等の執行残である。

静岡県林業改善資金特別会計

歳 入

| 予算現額 | 調定額 | 収入済額 | 不納欠損額 | 収入未済額 | 予算現額と収入済額との比較 | 予算現額に対する収入率 | 調定額に対する収入率 |
|------------------|------------------|------------------|--------|----------------|------------------|-------------|------------|
| 円 292,013,000 | 円 274,043,268 | 円 267,008,573 | 円 0 | 円 7,034,695 | 円 △25,004,427 | % 91.4 | % 97.4 |

歳 出

| 予算現額 | 支出済額 | 翌年度繰越額 | 不用額 | 執行率 |
|------------------|-----------------|--------|------------------|----------|
| 円 292,013,000 | 円 23,097,454 | 円 0 | 円 268,915,546 | % 7.9 |

- 1 歳入歳出差引額は、2億4,391万1,119円である。
- 2 収入未済額703万4,695円の内訳は、次のとおりである。

雑 入 405万8,695円 貸付金元利収入 297万6,000円

- 3 不用額2億6,891万5,546円は、貸付需要の見込み減に伴う林業改善資金貸付金等における執行残である。

静岡県沿岸漁業改善資金特別会計

歳 入

| 予算現額 | 調定額 | 収入済額 | 不納欠損額 | 収入未済額 | 予算現額と収入済額との比較 | 予算現額に対する収入率 | 調定額に対する収入率 |
|------------------|------------------|------------------|--------|--------|---------------|-------------|------------|
| 円 249,065,000 | 円 248,846,586 | 円 248,846,586 | 円 0 | 円 0 | 円 △218,414 | % 99.9 | % 100.0 |

歳 出

| 予算現額 | 支出済額 | 翌年度繰越額 | 不用額 | 執行率 |
|------------------|-----------------|--------|------------------|-----------|
| 円 249,065,000 | 円 66,538,187 | 円 0 | 円 182,526,813 | % 26.7 |

- 1 歳入歳出差引額は1億8,230万8,399円である。
- 2 不用額1億8,252万6,813円は、貸付需要の減に伴う沿岸漁業改善資金貸付金等における執行残である。

静岡県清水港等港湾整備事業特別会計

歳 入

| 予算現額 | 調定額 | 収入済額 | 不納欠損額 | 収入未済額 | 予算現額と収入済額との比較 | 予算現額に対する収入率 | 調定額に対する収入率 |
|--------------------|--------------------|--------------------|-------------|----------------|-------------------|-------------|------------|
| 円 6,648,024,000 | 円 6,015,699,404 | 円 6,009,529,099 | 円 26,560 | 円 6,143,745 | 円 △638,494,901 | % 90.4 | % 99.9 |

歳 出

| 予算現額 | 支出済額 | 翌年度繰越額 | 不用額 | 執行率 |
|--------------------|--------------------|------------------|-----------------|-----------|
| 円 6,648,024,000 | 円 5,702,123,148 | 円 922,202,000 | 円 23,698,852 | % 85.8 |

- 1 歳入歳出差引額は、3億740万5,951円である。
- 2 不納欠損額2万6,560円は、清水港使用料である。
- 3 収入未済額614万3,745円の内訳は、次のとおりである。

| | | | |
|-----------------|------------|--------|----------|
| 田子の浦港 財産貸付収入 | 322万3,435円 | 清水港使用料 | 278万119円 |
|-----------------|------------|--------|----------|
- 4 翌年度繰越額9億2,220万2,000円の内訳は次のとおりであり、繰越の理由は、計画・設計に関する諸条件の調整に日時を要したことによるものである。

| | | | |
|--------------|----------------|----------------|--------------|
| 清水港 施設整備費 | 8億4,517万6,000円 | 田子の浦港 施設整備費 | 4,809万3,000円 |
| 清水港 港湾管理費 | 2,051万円 | 田子の浦港 港湾管理費 | 842万3,000円 |
- 5 不用額2,369万8,852円は、清水港港湾管理費等における執行残である。

静岡県流域下水道事業特別会計

歳 入

| 予算現額 | 調定額 | 収入済額 | 不納 欠損額 | 収 入 未済額 | 予算現額と 収入済額と の 比 較 | 予算現額 に対する 収入率 | 調定額に 対する 収入率 |
|--------------------|--------------------|--------------------|-----------|------------|-------------------------|---------------------|--------------------|
| 円 4,766,435,000 | 円 4,668,939,442 | 円 4,668,939,442 | 円 0 | 円 0 | 円 △97,495,558 | % 98.0 | % 100.0 |

歳 出

| 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌年度繰越額 | 不 用 額 | 執行率 |
|--------------------|--------------------|------------------|------------------|-----------|
| 円 4,766,435,000 | 円 4,332,127,300 | 円 115,000,000 | 円 319,307,700 | % 90.9 |

- 1 歳入歳出差引額は、3億3,681万2,142円である。
- 2 翌年度繰越額1億1,500万円は、流域下水道建設費であり、繰越の理由は、国の補正予算に係る事業の着手が年度末になったことによるものである。
- 3 不用額3億1,930万7,700円は、狩野川西部管理費等における執行残である。

Ⅲ 財 産

財産の状況は、次のとおりである。

| 区 分 | | 平成 29 年度末現在高 | 平成 30 年度中増減(△)高 | 平成 30 年度末現在高 | | |
|------------------|-----------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 公 有 財 産 | 土 地 | 行政財産 | | | | |
| | | 公用財産 | 3,352,379.97 m ² | △1,037.72 m ² | 3,351,342.25 m ² | |
| | | 公共用財産 | 21,326,074.37 m ² | 33,404.84 m ² | 21,359,479.21 m ² | |
| | | 山林 | 21,996,081.52 m ² | △5,945.26 m ² | 21,990,136.26 m ² | |
| | 小計 | 46,674,535.86 m ² | 26,421.86 m ² | 46,700,957.72 m ² | | |
| | 普通財産 | 公舎 | 268,988.38 m ² | △18,257.52 m ² | 250,730.86 m ² | |
| | | その他 | 683,952.32 m ² | 9,429.61 m ² | 693,381.93 m ² | |
| | | 小計 | 952,940.70 m ² | △8,827.91 m ² | 944,112.79 m ² | |
| | 計 | 47,627,476.56 m ² | 17,593.95 m ² | 47,645,070.51 m ² | | |
| | 建 物 | 行政財産 | 公用財産 | 612,689.52 m ² | △495.46 m ² | 612,194.06 m ² |
| | | | 公共用財産 | 3,102,364.15 m ² | 7,248.27 m ² | 3,109,612.42 m ² |
| | | | 山林 | 1,452.36 m ² | △82.63 m ² | 1,369.73 m ² |
| | | | 小計 | 3,716,506.03 m ² | 6,670.18 m ² | 3,723,176.21 m ² |
| | | 普通財産 | 公舎 | 203,560.03 m ² | △10,017.52 m ² | 193,542.51 m ² |
| その他 | | | 52,724.77 m ² | △3,696.31 m ² | 49,028.46 m ² | |
| 小計 | | | 256,284.80 m ² | △13,713.83 m ² | 242,570.97 m ² | |
| 計 | 3,972,790.83 m ² | △7,043.65 m ² | 3,965,747.18 m ² | | | |
| 立木 | 所有 | 330,940.00 m ³ | 802.00 m ³ | 331,742.00 m ³ | | |
| | 分収 | 532,062.00 m ³ | 8,731.00 m ³ | 540,793.00 m ³ | | |
| | 計 | 863,002.00 m ³ | 9,533.00 m ³ | 872,535.00 m ³ | | |
| 動産 | 船舶 | 787.00 総トン 4 隻 | 0.00 総トン 0 隻 | 787.00 総トン 4 隻 | | |
| | 航空機 | 1 機 | 1 機 | 2 機 | | |
| 産 | 物権(地上権等) | 26,354,785.57 m ² | 0.00 m ² | 26,354,785.57 m ² | | |
| | 無体財産権 | 168 件 | 0 件 | 168 件 | | |
| | 有価証券 | 324,593 千円 | 0 千円 | 324,593 千円 | | |
| | 出資による権利 | 107,512,499 千円 | 115,094 千円 | 107,627,593 千円 | | |
| 物 品 | 備品 | 9,713 台 | 70 台 | 9,783 台 | | |
| | 図書 | 10 式 | 0 式 | 10 式 | | |
| | 動物 | 0 頭 | 0 頭 | 0 頭 | | |
| 債 権 | 54,259,048 千円 | 3,293,896 千円 | 57,552,944 千円 | | | |
| 基 金 | 614,550,453 千円 | 30,642,346 千円 | 645,192,799 千円 | | | |

(注) 立木は推定蓄積量、物品は取得価格1品100万円(車両は50万円)以上を計上

1 公有財産

(1) 土地

ア 行政財産

(ア) 「公用財産」の減少 1,037.72 m²の主な内訳は、次のとおりである。

| | | | |
|----|------------|--------|------------------------|
| 減少 | 西部農林事務所育種場 | (用途廃止) | △746.54 m ² |
|----|------------|--------|------------------------|

(イ) 「公共用財産」の増加 33,404.84 m²の主な内訳は、次のとおりである。

| | | | |
|----|-------------------|-----------------|--------------------------|
| 増加 | 急傾斜地崩壊危険区域(全体) | (買入れ) | 18,050.72 m ² |
| | 遠州灘沿岸浜松海岸(浜松篠原地区) | (海岸保全区域指定による実測) | 9,928.94 m ² |

(ウ) 「山林」の減少 5,945.26 m²の主な内訳は、次のとおりである。

| | | | |
|----|-------|------------|--------------------------|
| 減少 | 浜北県営林 | (用途廃止、売払い) | △4,840.91 m ² |
|----|-------|------------|--------------------------|

イ 普通財産

(ア) 「公舎」の減少 18,257.52 m²の主な内訳は、次のとおりである。

| | | | |
|----|--------------|--------|--------------------------|
| 減少 | 伝馬町新田公舎 | (分掌替え) | △7,735.09 m ² |
| | 浜松東高等学校教職員住宅 | (売払い) | △3,596.54 m ² |

(イ) 「その他」の増加 9,429.61 m²の主な内訳は、次のとおりである。

| | | | |
|----|-----------------------|--------|--------------------------|
| 増加 | 伝馬町新田公舎跡地 | (分掌替え) | 7,735.09 m ² |
| 減少 | 上伊太 No.2 急傾斜地崩壊危険区域跡地 | (売払い) | △1,108.26 m ² |

(2) 建物

ア 行政財産

(ア) 「公用財産」の減少 495.46 m²の主な内訳は、次のとおりである。

| | | | |
|----|-----------|--------|--------------------------|
| 増加 | 浜松西警察署 | (新築) | 4,441.11 m ² |
| 減少 | 水産技術研究所 | (用途廃止) | △3,745.53 m ² |
| | 埋蔵文化財センター | (分掌替え) | △2,659.47 m ² |

(イ) 「公共用財産」の増加 7,248.27 m²の主な内訳は、次のとおりである。

| | | | |
|----|-----------|-----------|--------------------------|
| 増加 | 東部特別支援学校 | (新築) | 8,531.33 m ² |
| | 静岡空港(本体部) | (増築) | 6,392.16 m ² |
| 減少 | 旧周智高等学校 | (用途廃止、撤去) | △8,940.07 m ² |
| | 県営住宅今沢団地 | (用途廃止、撤去) | △7,124.80 m ² |

イ 普通財産

(ア) 「公舎」の減少 10,017.52 m²の主な内訳は、次のとおりである。

| | | | |
|----|--------------|-------|--------------------------|
| 減少 | 小鹿職員公舎 | (撤去) | △1,639.44 m ² |
| | 袋井公舎 | (撤去) | △1,012.48 m ² |
| | 浜松東高等学校教職員住宅 | (売払い) | △958.17 m ² |

(イ) 「その他」の減少 3,696.31 m²の主な内訳は、次のとおりである。

| | | | |
|----|-------------|--------|--------------------------|
| 増加 | 東部特別支援学校元施設 | (用途廃止) | 5,332.46 m ² |
| 減少 | 西部特別支援学校元施設 | (撤去) | △7,257.00 m ² |

(3) 立 木(立木推定蓄積量)

ア「所有」の増加 802.00 m³の主な内訳は、次のとおりである。

| | | | |
|----|----------|----------|-------------------------|
| 増加 | 県営林(全体) | (実査による増) | 2,370.00 m ³ |
| 減少 | 大須賀県有防災林 | (伐採) | △724.00 m ³ |

イ「分収」の増加 8,731.00 m³の主な内訳は、次のとおりである。

| | | | |
|----|---------|----------|-------------------------|
| 増加 | 県営林(全体) | (実査による増) | 6,435.00 m ³ |
|----|---------|----------|-------------------------|

(4) 動 産

航空機の増加の内訳は、次のとおりである。

| | | | |
|----|----------|-------|-----|
| 増加 | 防災ヘリコプター | (買入れ) | 1 機 |
|----|----------|-------|-----|

(5) 無体財産権

増減なし

| | | |
|----|-------|------|
| 増加 | 著作権 | 2 件 |
| | 商標権等 | 1 件 |
| 減少 | 特許権 | △2 件 |
| | 実用新案権 | △1 件 |

(6) 出資による権利

「出資による権利」の増加 1 億 1,509 万 4 千円の主な内訳は、次のとおりである。

| | | |
|----|------------------|------------------|
| 増加 | 静岡県大井川広域水道企業団出資金 | 2 億 8,117 万 2 千円 |
| 減少 | 富士山静岡空港出資金 | △1 億 132 万 1 千円 |
| | 浜名湖国際頭脳センター出資金 | △6,342 万 2 千円 |

2 債 権

「債権」の増加 32 億 9,389 万 6 千円の主な内訳は、次のとおりである。

| | | |
|----|--------------|-------------------|
| 増加 | 静岡県立病院機構貸付金 | 25 億 1,440 万 1 千円 |
| | 中小企業振興資金貸付金 | 14 億 8,652 万 7 千円 |
| 減少 | 市町振興助成事業費貸付金 | △7 億 1,819 万 5 千円 |

3 基 金

「基金」の増加 306 億 4,234 万 6 千円の主な内訳は、次のとおりである。

| | | |
|----|-----------------|--------------------|
| 増加 | 静岡県県債管理基金 | 375 億 1,231 万 1 千円 |
| 減少 | 静岡県津波対策施設等整備基金 | △47 億 9,375 万 1 千円 |
| | 静岡県ふじのくにづくり推進基金 | △24 億 9,781 万 4 千円 |

基金の平成 30 年度中増減高及び平成 30 年度末現在高の内訳は、次のとおりである。

| 基金名 | 平成 29 年度末 現在高 | 平成 30 年度中 増減(△)高 | 平成 30 年度末 現在高 |
|--------------------------------|------------------|---------------------|------------------|
| | 千円 | 千円 | 千円 |
| 1 財政調整基金 | 8,922,045 | 952 | 8,922,997 |
| 2 県債管理基金 | 512,082,202 | 37,512,311 | 549,594,513 |
| 3 庁舎建設基金 | 5,570,977 | 4,657 | 5,575,634 |
| 4 大規模地震災害対策基金 | 1,934,313 | 207 | 1,934,520 |
| 5 静岡県と中華人民共和国浙江省との 友好交流促進基金 | 110,045 | 0 | 110,045 |
| 6 社会環境基盤整備資金 | 307,363 | 33 | 307,396 |
| 7 浜名湖花博開催記念基金 | 149,777 | △15,570 | 134,207 |
| 8 ワールドカップ開催記念基金 | 106,017 | △14,527 | 91,490 |
| 9 消費者行政活性化基金 | 11,116 | △3,575 | 7,541 |
| 10 県立美術博物館建設基金 | 1,540,679 | △9,719 | 1,530,960 |
| 11 県営住宅管理基金 | 6,599,995 | 212,498 | 6,812,493 |
| 12 地球環境保全等に関する基金 | 249,552 | △72,222 | 177,330 |
| 13 災害救助基金 | 4,350,728 | 465 | 4,351,193 |
| 14 安心子ども基金 | 4,384,029 | △1,678,776 | 2,705,253 |
| 15 介護保険財政安定化基金 | 2,345,622 | 250 | 2,345,872 |
| 16 後期高齢者医療財政安定化基金 | 4,229,110 | △180,517 | 4,048,593 |
| 17 森林を守り育てる人づくり基金 | 2,073,500 | △30,543 | 2,042,957 |
| 18 森の力再生基金 | 1,136,205 | 81,086 | 1,217,291 |
| 19 緑と水のふるさと基金 | 1,405,670 | △23,341 | 1,382,329 |
| 20 森林整備地域活動支援基金 | 67,926 | △7,123 | 60,803 |
| 21 空港建設基金 | 2,932,181 | 1,128,537 | 4,060,718 |
| 22 地域自殺対策緊急強化基金 | 17,546 | 0 | 17,546 |
| 23 ふじのくにづくり推進基金 | 22,559,314 | △2,497,814 | 20,061,500 |
| 24 津波対策施設等整備基金 | 10,565,453 | △4,793,751 | 5,771,702 |
| 25 富士山後継承基金 | 157 | 5,281 | 5,438 |
| 26 農業構造改革支援基金 | 949,664 | △136,785 | 812,879 |
| 27 地域医療介護総合確保基金 | 12,307,224 | 948,785 | 13,256,009 |
| 28 国民健康保険財政安定化基金 | 7,453,628 | 214,463 | 7,668,091 |
| 29 ふじのくにグローバル人材育成基金 | 188,415 | △2,916 | 185,499 |
| 計 | 614,550,453 | 30,642,346 | 645,192,799 |

平成 30 年度基金運用状況
審 査 意 見 書

I 審査の概要

1 審査の対象

静岡県立美術博物館建設基金

2 審査の期間

令和元年7月22日から令和元年8月30日まで

3 審査の方針

静岡県立美術博物館建設基金条例の趣旨に従って適正に運用・管理されているか、調書と関係帳簿及び証拠書類等を調査照合し審査を行った。

II 基金の運用状況

1 概要

本基金は、静岡県立美術博物館の建設及び館蔵品の取得に要する経費に充てるため昭和53年度に設置され、基金総額は、平成31年3月31日現在15億3,095万9,653円となっている。

2 基金の運用状況

平成30年度における基金の状況は、次の表のとおりである。

平成30年度には、絵画の購入はなかった。

増減の内訳は、運用利息の積立てによる現金の増加、館蔵品取得に充てるための基金取崩しによる現金の減少であり、預金については、出納局での一括運用に供している。

県立美術博物館建設基金運用状況

| 区 分 | | 平成30年3月31日 現 在 額 | 増 | 減 | 平成31年3月31日 現 在 額 |
|---------|------|---------------------|-----------|------------|---------------------|
| 有 価 証 券 | | 円 0 | 円 0 | 円 0 | 円 0 |
| 現 金 | 定期預金 | 361,675,618 | 52,720 | 14,868,186 | 346,860,152 |
| | 別段預金 | 134,572,285 | 5,096,186 | 0 | 139,668,471 |
| 絵 画 | | 1,044,431,030 | 0 | 0 | 1,044,431,030 |
| 合 計 | | 1,540,678,933 | 5,148,906 | 14,868,186 | 1,530,959,653 |

III 審査の結果及び意見

審査の結果、本基金は適正に運用されており、計数にも誤りはなかった。

